

科目名			担当者	
医学英語 I			馬内 里美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次 通年	演習	60 時間	必修 2 単位	なし

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療に関する語彙力の養成 ・読解に必要な基本的文法や表現の理解 ・医療や医学に関する文章の読解力の養成 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・医学用語の構成要素の習得を通して、医学用語の意味を把握できる ・必要な情報を探し出す読解力と正確な読解力
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場での会話の聴解練習と表現学習 ・医療または医学に関する文章を訳読に頼らず必要な情報を探し出す。 ・正確に英文を読み取る練習 ・医学用語の体系的な学習。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 辞書の使い方	第 16 週 前期復習
第 2 週 会話初診患者の案内 読解準備	第 17 週 会話(問診-消化不良) 読解準備
第 3 週 読解(患者との意思疎通) 医学用語(基礎)	第 18 週 読解(肥満) 医学英語(呼吸器系)
第 4 週 会話(初診受付) 読解準備	第 19 週 会話(症状を尋ねる表現) 読解準備
第 5 週 読解(患者との意思疎通) 医学用語(基礎)	第 20 週 読解(肥満とBMI) 医学英語(耳鼻・咽喉系)
第 6 週 会話(生活習慣の問診) 読解準備	第 21 週 会話(検査結果説明) 読解準備
第 7 週 読解(老化) 医学用語(脳・神経系)	第 22 週 読解(衛生) 医学英語(皮膚・関節系)
第 8 週 会話(問診-疲労) 読解準備	第 23 週 復習
第 9 週 読解(入院) 医学英語(消化器系)	第 24 週 会話(薬の服用法) 読解準備
第 10 週 会話(脈、血圧、体重測定) 読解準備	第 25 週 読解(脳卒中) 医学用語(リンパ・免疫系)
第 11 週 読解(患者との意思疎通) 医学用語	第 26 週 会話(問診) 読解準備
第 12 週 会話(採血・採尿) 読解準備	第 27 週 読解(脳卒中) 医学用語(内分泌系)
第 13 週 読解(非言語コミュニケーション) 医学用語	第 28 週 会話(MRI 検査) 読解準備
第 14 週 会話(診断) 読解準備	第 29 週 読解(脳卒中予防) 医学用語(細胞・組織系)
第 15 週 読解(糖尿病) 医学英語(骨格・筋肉系)	第 30 週 復習
成績評価方法	小テスト 60% (単語テスト・英作文テスト) 定期試験 40% (空所補充タイプ単語テスト・読解復習テスト)
教科書	First Aid! English for Nursing 樋口晶彦・John Tremarco、金星堂、2013 年
参考書	教科書の補助プリント
備考	専門用語も調べられる程度の英和辞書を持参すること

科目名			担当者	
医学英語Ⅱ			馬内 里美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	講義・演習	60 時間	必修 2 単位	なし

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療に関する語彙力の養成 ・読解に必要な文法や表現の理解 ・医療や医学に関する文章の読解力の養成 到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・医学英語の意味を把握できる ・医療に関する一般誌の記事を読むことができる 			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場での会話の聴解練習と表現学習 ・医療または医学に関する文章を訳読に頼らず必要な情報を探し出す ・正確に英文を読み取る練習 ・これまでに行ってきた医学用語の体系的な学習を活かして、語彙力を増強する。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	英語Ⅰ復習	第16週	会話 (Ⅱ型糖尿病) 読解準備	
第2週	会話 (初診受付) 読解準備	第17週	読解 (Ⅱ型糖尿病)	
第3週	読解 (ポリオとワクチン接種)	第18週	会話 (高コレステロール値) 読解準備	
第4週	会話 (初診) 読解準備	第19週	読解 (動脈疾患)	
第5週	読解 (処方箋・薬の服用法)	第20週	会話 (インフルエンザ) 読解準備	
第6週	会話 (片頭痛) 読解準備	第21週	読解 (米国の健康保険)	
第7週	読解 (鎮痛剤)	第22週	会話 (花粉症) 読解準備	
第8週	会話 (内科診察) 読解準備	第23週	読解 (季節アレルギー)	
第9週	読解 (薬の説明文)	第24週	会話 (COVID19) 読解準備	
第10週	会話 (内視鏡検査) 読解準備	第25週	読解 (COVID19 パンデミック)	
第11週	読解 (結腸内視鏡検査)	第26週	会話 (胸やけ) 読解準備	
第12週	会話 (呼吸器系の検査) 読解準備	第27週	読解 (胸やけ)	
第13週	読解 (SARS)	第28週	会話 (閉経の症状) 読解準備	
第14週	Review Test (リスニング・語彙)	第29週	読解 (閉経とホルモン療法)	
第15週	Review Test (読解) 解説	第30週	Review Test (リスニング・語彙)	
成績評価方法	各課のエクササイズ 60% (語彙・英作文) 期末テスト 40% (まとめ・読解実力テスト)			
教科書	English for Medicine-Revised Edition 西原俊明・西原真弓・Carey Benom、金星堂、2022年			
参考書	随時、プリント配布			
備考	専門用語も調べられる程度の英和辞書を持参すること			

科目名			担当者	
コンピュータ入門			鈴木 眞澄美	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	60 時間	必修 2単位	なし

授業の目的と到達目標	<p>基本的なパソコンの操作を学び、与えられた情報を編集・処理・発展させていくことができるようにする。</p> <p>正しい操作方法を理解し、変更があっても対処できるようにしていく。</p> <p>配布する資料を十分に活用できるようファイリングの能力も合わせて説明する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>基本的な用語と操作の確認。</p> <p>より効率的な文書の処理操作の習得。基本文書作成問題から、応用問題へ発展していく。</p> <p>テーマごとに練習問題を作成し、操作方法を習得する。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	Windows 概要	キーの名称とその機能	第16週	表の作成と印刷 1
第2週	Word 概要	名称、入力に便利な機能、保存	第17週	表の作成と印刷 2
第3週	ページ設定	複数ファイルの挿入	第18週	表の作成と印刷 3
第4週	文字列の移動とコピー・置換		第19週	Excel の基本操作
第5週	文字書式	文字の効果	第20週	データ入力の基礎
第6週	段落書式 1	ビジネス文書の作成	第21週	Excel での作表
第7週	段落書式 2	箇条書きと段落番号	第22週	計算式と関数 1
第8週	段落書式 3	タブ設定	第23週	計算式と関数 2
第9週	拡張書式		第24週	ページ設定
第10週	表の挿入		第25週	絶対参照
第11週	表の編集 1		第26週	条件付き書式
第12週	表の編集 2		第27週	データの並べ替えと抽出
第13週	オブジェクトの挿入 (図形)		第28週	グラフの作成 1
第14週	オブジェクトの挿入 (画像)		第29週	グラフの作成 2
第15週	オブジェクトの挿入 (ワードアート)		第30週	総合練習
成績評価方法	課題作成	20%		
	実技試験	80%		
教科書	できる Word&Excel&PowerPoint2019			
参考書	操作説明の補足・練習問題はプリントを配布して行う			
備考	練習問題は授業内容と習熟の確認、定期試験の準備にもなります。各自でしっかりと取り組みましょう。			

科目名			担当者	
数学			伊藤 朋幸	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義・演習	60 時間	必修 3 単位	なし

授業の目的と到達目標	数学的なものの考え方を学び、医療分野で必要な数学的な知識を身に付ける。 数学的な処理ができる。
授業の概要 達成課題	数と式の計算、1 次関数、2 次関数、三角関数、指数関数、対数関数についての性質とグラフについて学習する。各分野についてレポートを課し、作業を通して具体的な処理がスムーズにできるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	オリエンテーション、数と式の計算	第 16 回	中間考査 (第 1 章、第 2 章)
第 2 週	式の展開と因数分解	第 17 回	三角関数 (弧度法)
第 3 週	平方根の計算、複素数の計算	第 18 回	三角関数 (定義、単位円)
第 4 週	分数式の計算と応用	第 19 回	三角関数 (いろいろな公式)
第 5 週	無理式の計算	第 20 回	三角関数のグラフ
第 6 週	連立一次方程式の解法	第 21 回	指数関数 (指数法則、累乗根)
第 7 週	整式の除法と因数定理	第 22 回	指数関数 (指数計算)
第 8 週	方程式の解法	第 23 回	指数関数のグラフ
第 9 週	第 1 章のまとめ (問題演習)	第 24 回	対数の定義
第 10 週	関数とグラフ (直線)	第 25 回	対数の計算規則
第 11 週	関数とグラフ (放物線)	第 26 回	底の変換公式
第 12 週	関数とグラフ (円、楕円)	第 27 回	対数関数のグラフ
第 13 週	関数とグラフ (楕円、双曲線)	第 28 回	三角関数のまとめ
第 14 週	関数とグラフ (不等式の表す領域)	第 29 回	指数関数のまとめ
第 15 週	第 2 章のまとめ (問題演習)	第 30 回	対数関数のまとめ

成績評価方法	レポート 30% 定期試験 70%
教科書	大学新入生のための数学入門、石村園子著、共立出版、2015 年 1 月発行
参考書	特になし
備考	数学はこれから学ぶ様々な学問の基礎である。授業を通して、数学的な考え方や知識の整理の仕方を学ぶこと。また、専門教科との関連を常に考えて学習すること。

科目名			担当者	
統計学			伊藤 朋幸	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	なし

授業の目的 と 到達目標	医療分野で必要となる統計の手法を習得する。
授業の概要 達成課題	統計の基礎知識を一通り説明する。演習を通して具体的な作業を行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス、代表値（平均） 第 2 週 代表値（メジアン、モード） 第 3 週 散布度（範囲、分散、標準偏差） 第 4 週 散布度（平均偏差、四分位偏差） 第 5 週 z-スコア、T-スコア、相関 第 6 週 相関係数 第 7 週 回帰直線 第 8 週 記述統計のまとめ 第 9 週 中間試験 第 10 週 全数調査と標本調査 第 11 週 確率分布と正規分布 第 12 週 正規分布表の読み方と使い方（標準正規分布） 第 13 週 正規分布表の使い方（一般の正規分布）と応用問題 第 14 週 教科書の問題の解説 第 15 週 推測統計のまとめ	
成績評価方法	レポート 30% 定期試験 70%
教科書	看護学系の統計入門 水野 泰之/培風館/2014
参考書	特になし
備考	統計は医療分野では必要不可欠な手法である。授業を通して、統計的な手法をしっかりと学ぶこと。また、専門教科との連携を常に考えて学習すること。

科目名			担当者	
国語表現			高橋 哲	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義・演習	60 時間	必修 4 単位	なし

授業の目的 と 到達目標	この授業では、「正確な表現」と「書くことの楽しさ」との両立を追求していく。実務レベルの文章では、読み手に誤解を招きかねない表現は避けなければならない。しかし一方で、それが文章を書くことに対するためらいにつながることは好ましくない。したがって授業では「文章を書くのが楽しい」と思いつつ、「誤解を与えない表現」にも気を配れるようにする力もつくよう配慮していく。最終的には自己PR や報告書の作成の仕方にもつながるはずである。しかしまずは、これまでの自分の言葉の使い方を見直し、洗練するきっかけとなることを目標とする。			
授業の概要 達成 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭でも文書でも、自分を効果的にアピールできる日本語力を身につける ・葉書や手紙・メールを書く上での最低限のルールがわかる ・聞き取った情報を適切にメモして記録・記憶できる ・誤字や脱字がなく、かつ簡潔で分かりやすい文章が書ける 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	自己紹介文作成	第 16 週	前期に学習した文章修正能力の確認	
第 2 週	常体と敬体の混じった文章の修正	第 17 週	自己PR 文作成	
第 3 週	書き言葉と話し言葉の混じった文章の修正	第 18 週	口頭情報のメモ化	
第 4 週	誤字・脱字を含んだ文章の修正	第 19 週	メモしたものの文章化	
第 5 週	漢字・語句の学習①	第 20 週	口頭での自己PR を磨く	
第 6 週	漢字・語句の学習②	第 21 週	文書での自己PR を磨く	
第 7 週	だらだらとした長い文の修正	第 22 週	敬語	
第 8 週	課題文の要約①	第 23 週	電話の受け方	
第 9 週	課題文の要約②	第 24 週	受験先を想定した履歴書作成	
第 10 週	資料から読み取れることの文章化①	第 25 週	面接を想定した問答の作成	
第 11 週	資料から読み取れることの文章化②	第 26 週	広告の読み方①	
第 12 週	葉書・手紙の書き方	第 27 週	広告の読み方②	
第 13 週	メールの書き方	第 28 週	日本語検定に挑戦①	
第 14 週	履歴書作成	第 29 週	日本語検定に挑戦②	
第 15 週	前期試験対策	第 30 週	後期試験対策	
成績評価方法	提出物 50% 定期試験 50%			
教科書	授業時に資料を配付する			
参考書	特になし			
備考				

科目名			担当者	
生物学			出口 竜作 棟方 有宗	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	なし

授業の目的 と 到達目標	高等学校で学習する生物学の内容をベースとして生物の基礎を身につけるとともに、医療や看護、環境問題、さらには生態系や生物の多様性について幅広く学び、専門的領域に資する即戦力的な知識を習得し、社会人としての教養を高めることを目指す。			
授業の概要 達成課題	本講義では、高等学校で履修する生物学の内容をベースとしながら生物学の基礎を固め、かつ大学における専門領域の学習に必要となる生物学の基礎的事項を習得する講義を行う。講義は指定の教科書で行い、生物の最小単位である細胞や、遺伝や発生を司る DNA、細胞や DNA によって調節される発生や形態形成、行動の仕組み、環境の問題等について幅広く学ぶ。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週 ガイダンス・生物のライフサイクル 第 2 週 細胞の構造と生命体を構成する物質 第 3 週 細胞の分裂と情報伝達 第 4 週 生体とエネルギー 第 5 週 光合成と窒素同化 第 6 週 多細胞生物の自己維持機構（個体の自己維持） 第 7 週 多細胞生物の自己維持機構（生体防御機構） 第 8 週 生物と環境がつくる生態系 第 9 週 生物の進化と多様性 第 10 週 生命科学技術と社会（遺伝子組み換え） 第 11 週 生命体の受精と成長 第 12 週 遺伝子の構造と機能 第 13 週 遺伝の仕組みと遺伝病 第 14 週 生命科学技術と社会（幹細胞と再生医療） 第 15 週 本講義のまとめ				
成績評価方法	レポート	20%		
	定期試験	80%		
教科書	やさしい基礎生物学 南雲保著 羊土社			
参考書	授業で適宜指示、プリント配布			
備考	わからないところは、授業の前後に各教員に確認して、苦手部分を解決しましょう。			

科目名			担当者	
解剖生理学			辻川 寛	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	なし

授業の目的と到達目標	すべての医療専門職の基礎となる解剖生理学を学び、人体の構造と機能を適切な解剖学・生理学用語で説明できるようになる。 人体の構造と機能を二次元および三次元的に理解できるようになる。
授業の概要 達成課題	人体の構造と機能について、骨格・筋・神経・感覚器・血液・生体防御・循環器・呼吸器・消化器・内分泌・泌尿器・生殖器などのさまざまな系統について、細胞から組織、器官、個体レベルまで幅広い視点で講義を行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 人体の構成	第 16 週 血液系
第 2 週 細胞から見た人体	第 17 週 生体防御系
第 3 週 骨格系①	第 18 週 循環系① 心臓
第 4 週 骨格系②	第 19 週 循環系② 血管系
第 5 週 筋系①	第 20 週 循環系③ 血管の生理・リンパ系
第 6 週 筋系②	第 21 週 呼吸系①
第 7 週 豚眼解剖実習	第 22 週 呼吸系②
第 8 週 筋系③	第 23 週 消化・吸収系① 上部消化管
第 9 週 神経系①	第 24 週 消化・吸収系② 下部消化管
第 10 週 神経系②	第 25 週 消化・吸収系③ 肝臓・胆嚢・膵臓
第 11 週 神経系③	第 26 週 内分泌系
第 12 週 神経系④	第 27 週 腎尿路系①
第 13 週 神経系⑤	第 28 週 腎尿路系②
第 14 週 感覚系① 皮膚	第 29 週 生殖器系① 男性・女性生殖器
第 15 週 感覚系② 視覚・皮膚以外の感覚	第 30 週 生殖器系② 人体の発生
成績評価方法	期末試験 90% 小テスト 10%
教科書	《新看護学 1》 専門基礎 [1] 人体のしくみとはたらき (第 14 版) 小林 靖/幸田 和久
参考書	プリント配布、参考書は授業で紹介する。
備考	覚えるべき事項、理解すべき事項が非常に多いので、試験前の一夜漬けではなく、こまめに復習をすること。

科目名			担当者	
解剖生理学実習			加藤 徳子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実習	45 時間	必修 1 単位	なし

授業の目的 と 到達目標	視能訓練士として人体の構造及び機能を観察や体験を通してよりよく理解する ・ 対象をよく観察できる ・ 体験を通して機能を理解できる
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体模型のスケッチ ・ 組織の顕微鏡観察 ・ 血圧の測定
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 実習オリエンテーション、顕微鏡の使用説明 組織の事前学習 第 2 週 組織の観察 1 第 3 週 組織の観察 2 検討会 第 4 週 解剖模型の事前学習・解剖模型のスケッチ 1 第 5 週 解剖模型のスケッチ 2 第 6 週 検討会 第 7 週 血圧の事前学習・血圧の測定 1 第 8 週 血圧の測定 2 第 9 週 検討会 第 10 週 最大酸素摂取量の事前学習・最大酸素摂取量の測定 第 11 週 最大酸素摂取量の測定 第 12 週 検討会 第 13 週 感覚 第 14 週 検討会 第 15 週 試験	
成績評価方法	定期試験(70%)、レポート(30%)等で評価
教科書	特に指定はない
参考書	授業で適宜指示、プリント配布
備考	

科目名			担当者	
心理測定法			福島 朋子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>1. 「こころ」を対象とする学問の特徴について説明できる。</p> <p>2. 心理学的な測定法について、いくつか例をあげて説明できる。</p> <p>3. 心理学で測定された知見を理解し、それを基に自分自身について考察することができる。</p> <p>※臨床心理士として、相談援助の経験をもつ教員が心理測定法について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>心理学とは、目に見えない「こころ」の働きについて、表情や行動など外から見る事ができるものを手がかりに測定し捉えようとする学問領域である。</p> <p>この授業では、心理学においてどのように「こころ」について考え測定してきたのか、具体的な実験・測定例をあげながら説明する。また、実際の心理学的実験などを体験することで、自分ひいては人間への理解を深めることを目的とする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション：心理学とはどのような学問か</p> <p>第 2 週 見えの測定①：さまざまな錯覚の測定と体験</p> <p>第 3 週 見えの測定②：知覚の仕組み</p> <p>第 4 週 記憶の測定：記憶の仕組み</p> <p>第 5 週 社会集団におけるこころの測定①：同調と服従</p> <p>第 6 週 社会集団におけるこころの測定②：囚人のジレンマ</p> <p>第 7 週 社会集団におけるこころの測定③：社会的手抜きと援助行動</p> <p>第 8 週 動物のこころを測る①：動物のこころを知る</p> <p>第 9 週 動物のこころを測る②：動物のこころの測定の実際</p> <p>第 10 週 人格の測定①：人格とは何か</p> <p>第 11 週 人格の測定②：質問紙法と投影法による測定</p> <p>第 12 週 人格の測定③：作業検査法による測定</p> <p>第 13 週 人格の測定④：作業検査法の結果分析と自己理解</p> <p>第 14 週 人間関係を測る①：コミュニケーションの測定</p> <p>第 15 週 人間関係を測る②：コミュニケーションの理解と支援</p>	
成績評価方法	<p>授業中の小レポート 20%</p> <p>定期試験 80%</p>
教科書	サトウタツヤ・渡邊芳之（著）「改訂版 心理学・入門」有斐閣アルマ
参考書	授業中に随時紹介する。
備考	この授業は講義科目ではあるが、体験を重視した内容となるため積極的に取り組んで欲しい。また、毎回の授業時には、前回の内容を復習してのぞむこと。

科目名			担当者	
臨床心理学			佐藤 智昭	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>臨床の現場で支援を効果的に進めるために必要なクライアント (=患者) の心理、小児心理等を把握し、知識や手法を学ぶ。</p> <p>※臨床心理士の資格を持ち、現場の第一線で子どもから大人まで幅広くカウンセリングを行っている講師が講義する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>①乳幼児期から老年期に至るまで生涯発達課題について、それぞれの段階における心理特性を、その変化や障害・病理も含めて理解する。</p> <p>②クライアントが幸せに生き、また、不適応状態から回復するために何が必要か、どういう過程をたどるか見通しを持てるようになる。</p> <p>③②の見通しを達成するために必要な臨床心理学的援助方法を理解する。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	臨床心理学とは何か? -視能訓練士が出会いやすい事例から-			
第 2 週	臨床心理学の基礎 feeling			
第 3 週	臨床心理学で出会う病気や障害			
第 4 週	臨床心理学の基礎理論 1 精神分析			
第 5 週	臨床心理学の基礎理論 2 ヒューマニスティックアプローチ			
第 6 週	臨床心理学の基礎理論 3 認知行動療法			
第 7 週	見立て・正常と異常			
第 8 週	相談する人・相談される人 傾聴と質問			
第 9 週	個人の病理と家族の病理の関係 1 needs			
第 10 週	個人の病理と家族の病理の関係 2 愛着の重要性			
第 11 週	危機介入の実際 1 通過儀礼			
第 12 週	危機介入の実際 2 いじめ			
第 13 週	臨床心理学事例 1 ある家族の危機と変容			
第 14 週	臨床心理学事例 2 ある家族の危機と変容			
第 15 週	まとめ			
成績評価方法	授業参加の態度	50%		
	期末試験	50%		
教科書	岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美著『臨床心理学入門 多様なアプローチを越境する』有斐閣アルマ			
参考書				
備考				

科目名			担当者	
医学概論（医療概念、病理）			沼崎 宗夫	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	人間の生命が医学においていかに扱われるべきか考え、医療従事者としての資質を身につける <ul style="list-style-type: none"> ・医学の歴史を通して目指す医療を考える ・病気の原因、症状を学び健康に対する関心を高め、心身ともに健康な医療人を目指す ※病理医として臨床経験がある講師が医学概論を講義する。			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療職種で役割が分化している最新医療に必要な共通の意識を学ぶ ・勉強した内容を配布された資料を参考にして、理解しやすくまとめることができる 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週 医学とは何か 第 2 週 医学の歴史 第 3 週 健康・病気 第 4 週 病気の原因 1 内因 第 5 週 病気の原因 2 外因 第 6 週 病気による身体の変化 1 血液循環障害 第 7 週 病気による身体の変化 2 進行性変化・退行性変化 第 8 週 病気による身体の変化 3 炎症 第 9 週 病気による身体の変化 4 腫瘍・生体反応 第 10 週 病気の診断 第 11 週 病気の治療 第 12 週 病気の予防 第 13 週 新しい医療システム 第 14 週 医学の実践 第 15 週 衛生統計				
成績評価方法	レポート	10%		
	期末試験	90%		
教科書				
参考書	授業で適宜指示、プリント配布			
備考				

科目名			担当者	
看護・保健概論			相澤 洋子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・前期	講義	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	看護・保健について学び、医療チームの一員として、他職種と連携できるようになる。 ※看護師として、大学病院等で実務経験のある教員がチーム医療、他職種連携、医療人としての基礎分野について講義する。
授業の概要 達成課題	看護という人間科学を通して人間関係の大切さを確認し、医療職として患者や他職種とより良い関係性の構築を目指すことができるようになる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 専門職としての基準 第 2 週 看護活動の本質 ①看護を考える 第 3 週 看護活動の本質 ②人間にとって健康とは 第 4 週 歴史に見る看護の誕生と発展 第 5 週 保健医療福祉システムについて 第 6 週 看護と倫理 視能訓練士と倫理 第 7 週 看護の対象 第 8 週 医療安全対策 アクシデント・インシデント 感染対策 第 9 週 看護の実践方法としての看護過程 第 10 週 観察・記録 SOAP について 第 11 週 コミュニケーションについて 第 12 週 高齢化社会の理解 第 13 週 認知症の理解 認知症サポーター養成講座 第 14 週 現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題 第 15 週 視能訓練士と看護	
成績評価方法	定期試験（100％）で評価を行う。
教科書	視能学 第3版（文光堂）
参考書	看護学概論（メヂカルフレンド社） 基礎看護学 ¹ （金原出版）
備考	

科目名			担当者	
精神衛生学			釣舟 晴一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>心の健康を理解し、患者が心身の健康を回復する過程を援助する際に必要な知識を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の精神・身体を健康に維持することが出来る ・患者の精神状態を理解し、優しく接することが出来る <p>※障がい者施設で勤務している教員が、精神衛生について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に置いて身体と精神の関連を理解する ・精神障害を理解する ・精神障害の改善法を理解する ・メンタルヘルスの考え方を理解する
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 精神衛生とは メンタルヘルス①</p> <p>第 2 週 精神衛生とは メンタルヘルス② 周産期のメンタルヘルス</p> <p>第 3 週 子ども時代のメンタルヘルス</p> <p>第 4 週 思春期・青年期のメンタルヘルス</p> <p>第 5 週 おとなの男性と女性のメンタルヘルス</p> <p>第 6 週 老年期のメンタルヘルス</p> <p>第 7 週 ストレスとは</p> <p>第 8 週 働く人のストレスとメンタルヘルス</p> <p>第 9 週 ストレスコーピングについて</p> <p>第 10 週 心の病とは</p> <p>第 11 週 精神疾患と脳の機能変調</p> <p>第 12 週 不安とパーソナリティ</p> <p>第 13 週 ストレス反応について</p> <p>第 14 週 アルコール依存と薬物乱用</p> <p>第 15 週 まとめ</p>	
成績評価方法	定期試験(90%)、レポート(10%)等で評価する
教科書	特に指定しない
参考書	授業で適宜指示、プリント配布
備考	

科目名			担当者	
臨床医学 I			富山優介、村上真之、永澤拓也、相澤 康弘、首藤 和弘	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有 (西村・山口・武田・相澤)

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床における眼疾患について学ぶ 安全な医療現場を整え、チーム医療を安全に行うための知識を学ぶ 視能訓練士として必要な全身疾患とその成因を学ぶ ※眼科医として実務経験のある教員（小犬丸・瀧澤）が、臨床における眼疾患について症例を交えながら講義する。 臨床工学技士として実務経験のある教員（相澤）が、医療安全について講義する。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 臨床における眼疾患について学び、 医療の安全を考えて検査できる知識を身につける 全身疾患と眼疾患を結び付け、検査を正確にできる知識・技術を身につける
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 網膜疾患① 第 2 週 網膜疾患② 第 3 週 緑内障① 第 4 週 医療の安全①（相澤） 第 5 週 医療の安全② 第 6 週 医療の安全③ 第 7 週 医療の安全④ 第 8 週 医療の安全⑤ 第 9 週 医療の安全⑥ 第 10 週 疾患の成因、高次脳機能障害①（首藤） 第 11 週 疾患の成因、高次脳機能障害② 第 12 週 疾患の成因、高次脳機能障害③ 第 13 週 疾患の成因、高次脳機能障害④ 第 14 週 疾患の成因、高次脳機能障害⑤ 第 15 週 疾患の成因、高次脳機能障害⑥	
成績評価方法	定期試験（100%）
教科書	視能矯正学改訂第 3 版 / 丸尾 敏夫 金原出版 視能学第 3 版 / 小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美 文光堂 現代の眼科学改訂 13 版 / 所 敬 金原出版
参考書	授業で適宜指示、プリント配布
備考	

科目名			担当者	
臨床医学Ⅱ			村田 祐二	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	講義	15 時間	必修 1 単位	

授業の目的と到達目標	視能矯正の対象となる小児の発達・発育と疾病について学び、小児眼科学の理解を深める。 ・乳幼児を含む小児の発達を理解し、検査・訓練の際に適切な対応ができる。 ・眼疾患に関わる、さまざまな小児疾患を知り、臨床時に対応する知識を身につける。 ・法定伝染病等学校に関わる疾患、学校健診について知る。
授業の概要 達成課題	小児の正常な発達・発育からその異常、疾患について解説し、眼疾患を伴う先天疾患、感染症へとつなぐ。学校伝染病・検診から主要な小児疾患についてまた、療育・支援までを解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 小児期の発達・保健 第 2 週 先天異常（代謝異常・染色体異常・奇形） 第 3 週 ヒトの染色体とその分析法 第 4 週 新生児疾患 第 5 週 栄養性疾患 第 6 週 代謝疾患 第 7 週 内分泌疾患・消化器疾患 第 8 週 感染性疾患 第 9 週 呼吸器疾患・血液疾患・小児がん・循環器疾患・アレルギー性疾患 第 10 週 自己免疫疾患 第 11 週 神経疾患・筋疾患・運動器疾患 第 12 週 心身症・腎疾患・泌尿器疾患 第 13 週 寄生虫 第 14 週 緊急時の ABC 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	定期試験（80%）、レポート（20%）等で評価する。
教科書	最新育児小児病学 改訂7版 黒田泰弘 南江堂
参考書	図書館内にある小児科学の本を適宜指示
備考	

科目名			担当者	
視覚生理学			三浦 歌奈子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視覚（光覚・色覚・形態覚・視野）とは何かを知り、機能を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚の成り立ち、視覚伝導路が分かる。 ・視覚の働きと仕組みが分かる。 ・視覚の評価が分かる。 ・色覚異常を説明することができ、結果を読み取ることができる。 ・色覚検査の種類・特徴を理解し、検査を行うことができる。 <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、視覚生理学の講義をする</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず視覚の成り立ち・視覚伝導路がわかることで「見る」ためのメカニズムを理解する。これを理解するためには眼の解剖も覚える。次に視覚それぞれの仕組みや働きを学び、どのように評価するのかを理解する。後期には評価するための検査を学ぶため、基礎をしっかりと身に付ける。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 全体のガイダンス、視覚とは</p> <p>第 2 週 視覚伝導路</p> <p>第 3 週 視細胞、網膜、視覚の成り立ち</p> <p>第 4 週 視覚入力刺激、視覚の反応</p> <p>第 5 週 光覚</p> <p>第 6 週 形態覚①</p> <p>第 7 週 形態覚②</p> <p>第 8 週 視野①</p> <p>第 9 週 視野②</p> <p>第 10 週 色覚</p> <p>第 11 週 色覚異常①</p> <p>第 12 週 色覚異常②</p> <p>第 13 週 色覚検査①</p> <p>第 14 週 色覚検査②</p> <p>第 15 週 総括</p>	
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>『視能学第 3 版』 小林義治 / 文光堂 / 2022</p> <p>『眼科検査ガイド第 3 版』 根木 昭 / 文光堂 / 2022</p> <p>『現代の眼科学 改訂第 13 版』 所 敬 / 金原出版 / 2013</p> <p>『NEW エッセンシャル眼科学第 8 版』 丸尾敏夫 / 医歯薬出版 / 2014</p>
参考書	プリント配布
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語・携帯電話の使用は禁止です。 ・配布されるプリントは必要に応じてノートに貼ることをお勧めします。 ・一冊の教科書だけではなく複数の教科書を参考に学びましょう。 ・学ぶ姿勢を大切に 1 回 1 回の授業を真剣に受けましょう。

科目名			担当者	
生理光学			庄司 正和	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30 時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>眼光学における屈折の原理ともの見える仕組みを理解し、屈折・調節の異常と矯正の基礎について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幾何光学の基本を理解する。 ・視覚の成り立ちの中での特に眼球光学系について理解し、説明できる。 ・眼球の屈折状態の定義・分類・矯正方法が説明できる。 ・眼屈折に関するパワークロスと式、基本的な計算を習得する。 <p>※ 視能訓練士として臨床経験のある教員が、業務の基礎となる生理光学を講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず視器の構造と光学系から視覚の成り立ちを理解する。幾何光学を基本に、眼光学系の理論と特徴を学ぶ。屈折の仕組み、異常とその矯正方法について理解し、屈折検査を学ぶ土台を作る。視覚の成り立ちを人に説明できること、屈折の仕組みとその異常について説明できること。眼球光学図が作図できる、屈折式とパワークロスの表記、計算の完成が主な目標である。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 この授業の目的と進め方。生理光学とは。視覚の成り立ち。</p> <p>第2週 光の性質と幾何光学</p> <p>第3週 レンズの種類と結像</p> <p>第4週 眼屈折と調節</p> <p>第5週 屈折異常の光学 ① 正視と近視</p> <p>第6週 " ② 遠視</p> <p>第7週 " ③ 乱視</p> <p>第8週 " ④ 乱視 スタムのコノイド</p> <p>第9週 " ⑤ 老視</p> <p>第10週 小テスト</p> <p>第11週 屈折異常の矯正 ①</p> <p>第12週 屈折異常の矯正 ②</p> <p>第13週 屈折表記のまとめ - 光学図とパワークロス</p> <p>第14週 " - レンズ式とパワークロス</p> <p>第15週 総まとめ</p>	
成績評価方法	<p>定期試験 90% ※定期試験で6割未満のものは再試験の対象である</p> <p>小テスト 10%</p>
教科書	<p>視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂</p> <p>屈折異常とその矯正/所敬/金原出版</p> <p>視能訓練士のための生理光学 自分で作るワークブック/川瀬芳克</p>
参考書	<p>New エッセンシャル眼科学第8版/丸尾敏夫</p> <p>光学・眼鏡 (視能学エキスパート) /日本視能訓練士協会/医学書院</p>
備考	<p>視能訓練士の検査の基礎となるもの見える仕組み、屈折を学ぶ。復習を十分に行い毎回理解した状態で次の授業に臨んでほしい。</p>

科目名			担当者	
視器の解剖・生理学			佐藤 かおり 庄司 正和	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義・演習	60時間	必修 3単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視器の部位と名称を理解する ・視器の機能を理解する ・診断に必要な検査、画像診断についての基礎知識を習得する。 ※臨床経験を持つ視能訓練士が、視器の解剖・生理学の専門科目を担当する。			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・眼球の構造と各部位の名称及び機能について学び理解する。 ・各部位の検査を学び理解する。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	オリエンテーション、視覚器について	第 16 週	前期復習	
第 2 週	眼球付属器の構造と機能 1 (眼瞼・結膜)	第 17 週	視神経と視路 1	
第 3 週	眼球付属器の構造と機能 2 (涙器)	第 18 週	視神経と視路 2	
第 4 週	眼球付属器の構造と機能 3 (外眼筋・眼窩)	第 19 週	眼球の血管系 1	
第 5 週	角膜の構造と機能 1	第 20 週	眼球の血管系 2	
第 6 週	角膜の構造と機能 2・強膜の構造と機能	第 21 週	眼球の血管系 3	
第 7 週	ぶどう膜の構造と機能 1	第 22 週	眼球の発生 1	
第 8 週	ぶどう膜の構造と機能 2	第 23 週	眼球の発生 2	
第 9 週	網膜・硝子体の構造と機能 1	第 24 週	眼球の発生 3	
第 10 週	網膜・硝子体の構造と機能 2	第 25 週	眼球の加齢変化	
第 11 週	網膜・硝子体の構造と機能 3	第 26 週	眼解剖と眼科一般検査 1	
第 12 週	水晶体の構造と機能	第 27 週	眼解剖と眼科一般検査 2	
第 13 週	眼房・房水・隅角の構造と機能 1	第 28 週	眼解剖と眼科写真撮影 1	
第 14 週	眼房・房水・隅角の構造と機能 2	第 29 週	眼解剖と眼科写真撮影 2	
第 15 週	前期まとめ	第 30 週	後期まとめ	
成績評価方法	試験 100% (中間試験あり)			
教科書	視能学 第3版 : 小林 義治 他、文光堂、2022 NEW エッセンシャル眼科学 第8版 : 丸尾 敏夫、医歯薬出版、2014 現代の眼科学 改定第13版 : 所 敬、金原出版 2018			
参考書	プリント配布			
備考	授業中、私語・スマホの使用は禁止。礼儀に反することはしない。理解できないところはそのままにしないで、積極的に質問すること。必ず復習すること。			

科目名			担当者	
眼光学			笹野 義博	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義・演習	60 時間	必修 3 単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 光に関する基本的な知識、現象、特性等を、実験などを通して機能的に学習する。 レンズについて、つくり、働きなどの光学的な特性を理解する。 眼の屈折力と矯正の方法を正しく理解し、患者さんの良きパートナーとして活躍できるように学習し、社会で役立つ人材となる。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 光の波としての性質が、物質の境目で屈折や回折などの現象を引き起こすことを理解し、その規則性の基礎的な知識を得ることができる。 また実験によって、レンズやプリズムの屈折法則を詳しく理解する。 眼の働きを正常に矯正するための方法を学び、実践する力を養う。 国家試験合格に向けての演習問題にも取り組む。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週 数学的準備 1 (単位、指数等)	第 16 週 面屈折力
第 2 週 数学的準備 2 (角度、ラジアン単位、三角比等)	第 17 週 レンズの倍率
第 3 週 光の基本的性質 1 (光の速さ、波長、振動数、屈折等)	第 18 週 薄いレンズの屈折力
第 4 週 光の基本的性質 2 (屈折の作図、全反射等の実験)	第 19 週 厚いレンズの屈折力
第 5 週 レンズの働き 1 (レンズの種類と屈折力)	第 20 週 眼球の光学 1 (模型眼・角膜など)
第 6 週 レンズの働き 2 (凸面鏡、凹面鏡)	第 21 週 眼球の光学 2 (虹彩・水晶体など)
第 7 週 レンズの働き 3 (プリズム)	第 22 週 屈折検査の光学 1 (眼の屈折力と屈折度など)
第 8 週 レンズの働き 4 (レンズとプリズム実験)	第 23 週 屈折検査の光学 2 (屈折と調節など)
第 9 週 凸レンズによる像の作図	第 24 週 屈折検査の光学 3 (屈折異常の矯正など)
第 10 週 凹レンズによる像の作図	第 25 週 めがねの光学 1 (レンズの特性)
第 11 週 レンズの公式・演習 1	第 26 週 めがねの光学 2 (球面レンズとトーリックレンズ)
第 12 週 レンズの公式・演習 2	第 27 週 めがねの光学 3 (単焦点レンズと多焦点レンズ)
第 13 週 凸レンズの実験	第 28 週 コンタクトレンズの光学
第 14 週 凹レンズの実験	第 29 週 屈折矯正手術の光学
第 15 週 全反射と臨界角の理論と測定	第 30 週 総まとめ

成績評価方法	定期試験 80% レポート 20%
教科書	屈折異常とその矯正 改訂第 2 版 (著者: 所 敬) 金原出版 2019
参考書	プリントを渡して授業を行う。
備考	出席は毎回とる。 授業は真剣に受ける。 グループ活動や実験においては積極的に行動する。

科目名			担当者	
公衆衛生学			吉田 裕人	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>集団を対象とした健康の保持増進、疾病予防と健康管理について学習し、公衆衛生学の意義について考え、自己の健康を維持する。</p> <p>さらには社会全体の健康及び健康維持について考える。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>的確な健康情報を取捨選択するスキルを身に付け、主体的かつ意識的に行動するための具体的なあり方を学習していく。</p> <p>併せて、視能訓練士国家試験の合格を目標に、公衆衛生分野の知識を身につける。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	衛生学・公衆衛生学序論	公衆衛生の定義		
第 2 週	保健統計	保健統計からみた日本の少子高齢化の現状など		
第 3 週	疫学	疫学とは？疫学を活用した保健行政など		
第 4 週	疾病予防と健康管理	一次予防～三次予防とは？スクリーニングの理解		
第 5 週	主な疾病の予防	感染症の予防、生活習慣病の予防		
第 6 週	環境保健	大気、水などの衛生		
第 7 週	地域保健と保健行政	地域保健の必要性など		
第 8 週	母子保健	出生率の推移などの統計と我が国の母子保健事業の内容		
第 9 週	学校保健	子どもの体格・体力の推移と歯科保健		
第 10 週	産業保健	職業と健康の関係		
第 11 週	高齢者の保健・医療・介護	高齢化率の推移などの統計と我が国の高齢者保健事業の内容など		
第 12 週	精神保健	様々な精神障害の理解など		
第 13 週	国際保健医療	公衆衛生のグローバル化		
第 14 週	保健医療福祉の制度と法規	我が国の医療制度の仕組みなど		
第 15 週	まとめ			
成績評価方法	定期試験(90%)、出席状況(10%)等で評価			
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 2023 (南江堂)			
参考書	適宜指示			
備考				

科目名			担当者	
社会福祉学			横山 英史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修2単位	なし

授業の目的と到達目標	<p>本講義は、社会福祉をはじめ学ぶ学生を対象とし、社会福祉の基礎理解のために「社会福祉とは何か」、「社会福祉の範囲と対象」、「社会福祉の方法論」、「社会福祉の実施体制」といった内容について入門的な授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉全般に関する基礎的な知識を習得できる。 ・医療現場において、福祉専門職と連携し、支援にあたる上での土台を培える。
授業の概要 達成課題	<p>現在、日本の社会は大きく変化しており、措置制度から契約制度、施設福祉サービスから地域福祉サービスへと、福祉の在り方も大きく変わっている。社会福祉の歴史的な意味や、時代の移り変わりとともにその考え方、制度がどう変化したのかを理解し、社会福祉の全体像をイメージできるよう講義を進めていく。その際、他人事としてではなく、少しでも自身に近づけて考えられるようになることを目指す。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	社会福祉とは
第2週	現代社会の変化と社会福祉
第3週	社会福祉のあゆみ（日本）
第4週	社会福祉のあゆみ（欧米）
第5週	低所得者福祉
第6週	子ども家庭福祉
第7週	高齢者福祉
第8週	障害者福祉①
第9週	障害者福祉②
第10週	地域福祉
第11週	医療福祉
第12週	社会福祉施設の役割
第13週	ソーシャルワークの理解
第14週	社会福祉を担う人々
第15週	まとめ
成績評価方法	<p>期末試験（70%） 小テスト・課題・レポート（30%）</p>
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論」 鬼崎信好・本郷秀和 編 講談社
参考書	必要に応じて資料を配布する他、視聴覚教材等を使用する。
備考	

科目名			担当者	
保育学			本多 ふく代 森田 清美 大沼 百合子	非常勤 非常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有 (大沼 百合子)

授業の目的 と 到達目標	<p>保育学では子どもの心身の発育・発達の共通性と個別性を理解し、将来、乳幼児の患者を扱う医療従事者として愛情をもって子どもと接し、発達に応じて適切に対応できる能力を養うことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育発達の過程を踏まえ、自身の成長を振り返りながら個々の子どもの成長に寄り添い、適切に対応する知識と態度を身に付ける。 ・保育実習に向けての心構えができる。 <p>※保育士の資格を有し、保育現場での業務経験のある教員が子ども理解や子どもとの具体的な関わり方について授業を担当する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>生命の誕生からヒトの発育過程について、特に乳幼児期の発育、発達の共通性と個別性をポイントとして説明する。それにより子ども一人ひとりを理解するための基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>様々な保育事例を元に乳幼児の内面や大人の対応の仕方を学び、子ども理解を深める。また、実際に子どもの遊びを体験し、子どもの生活や遊びの重要性を具体的に理解する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	本多：オリエンテーション 保育を学ぶことの重要性 テキスト p. 1～22
第 2 週	子どもの心身の発育・発達① 発育・発達の個別性と共通性 テキスト p. 22～31
第 3 週	子どもの心身の発育・発達② 身体発育 テキスト p. 31～40
第 4 週	子どもの心身の発育・発達③ 精神発達 テキスト p. 40～51
第 5 週	子どもの心身の発育・発達と環境 テキスト p. 83～95
第 6 週	子どもの発育発達のまとめ
第 7 週	森田：運動の発達
第 8 週	運動遊びの実態と課題
第 9 週	運動遊びの役割
第 10 週	運動遊びの指導
第 11 週	大沼：保育を学ぶことの意味 ー子どもの存在・自分の成長から子供時代をみる ー p. 3・p. 130
第 12 週	子ども理解 (保育者の役割) ー子どもの発達について～子どもの事例から～
第 13 週	子どもと環境 ー環境から学ぶ・遊べる環境・遊びと子ども・家庭環境と集団保育
第 14 週	待合室などでの遊び p. 106
第 15 週	保護者対応 (親の思い) ー子どもを育てる ーp. 57～ 保育実習に向けてー視能訓練士科での保育実習の意味・諸注意・子どもと触れ合う ー
成績評価方法	授業内の課題 (レポート等) 50%、試験 50%として評価する。 評価は 3 人の担当教員で行う (本多 40%、森田 30%、大沼 30%)。
教科書	新保育学 改定 5 版 / 岡野雅子・松橋有子他 著 / 南山堂 / 2014 年
参考書	参考資料等はプリントして配布する。
備考	本授業は分野ごとに担当教員が替わる形式で行う。授業内容により教室を変更することがある。 授業内で、小レポート (課題、授業の感想等) を書くことがある。

科目名			担当者	
視能矯正学概論・関係法規			二本柳淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	15時間	必修1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>視能訓練士の業務である視能矯正と関係法規を通し、将来取得する資格・受講する科目への理解を深め、意欲を高めながら学習の基礎を固める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士法に基づく業務を説明することができ、関連する法規について理解できる。 ・視能矯正の概要を理解し、授業科目それぞれの特徴と必要性を学ぶ。 ・理想とする視能訓練士をイメージし、そこに至る学習方法を考えられる。 <p>※ 視能訓練士として臨床経験のある教員が、業務や役割などについて講義する。</p>			
授業の概要達成課題	<p>今まで抱いていた視能訓練士のイメージから、実際に法規で定められた視能訓練士の業務まで学び理解する。そのために授業でどんなことを学ぶか、倫理綱領・チーム医療を考えることで、目指す視能訓練士の理想像をイメージできるようにする。</p> <p>視能矯正学についての文章を読み解き、学習に必要な論理的思考とその表現方法を学んで基礎トレーニングを行い、自ら学習する姿勢を養う。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
<p>第1週 この授業の目的と進め方。学習方法について。教科書「視能学」について</p> <p>第2週 視能訓練士とは何か（自分たちのイメージとその理由）</p> <p>第3週 視能訓練士とは何か（法律から考える）</p> <p>第4週 視能訓練士法と関係法規 ①</p> <p>第5週 視能訓練士法と関係法規 ②</p> <p>第6週 視能矯正の歴史と視能訓練士</p> <p>第7週 チーム医療の中の視能訓練士～倫理綱領と倫理規定から</p> <p>第8週 インフォームドコンセント</p> <p>第9週 リスボン宣言</p> <p>第10週 事例検討①</p> <p>第11週 事例検討②</p> <p>第12週 これまでの授業からの視能訓練士像のイメージ①</p> <p>第13週 これまでの授業からの視能訓練士像のイメージ②</p> <p>第14週 視能訓練士になるために ①</p> <p>第15週 視能訓練士になるために ②まとめ *</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・小論文・発表 30% ・定期試験 70% 			
教科書	視能学第3版/小林義治・臼井千恵・松岡久美子/文光堂/2022			
参考書	視能訓練学/医学書院 視能訓練士になるには/ペリカン社 視能訓練士の一/保育社 目の見えない人は世界をどう見ているのか/伊藤亜紗 新聞・ニュース他様々な書籍等			
備考	<p>視能訓練士を目指すためにぜひ押さえておきたい内容の授業なので、短い時間の中で精一杯頭と心を使って考えていただきたい。とともに今後の勉強方法、取り組み方を学び他教科にも応用してほしい。文章を読む習慣、自分の考えを文章にまとめ、人に伝える習慣を身に付けてもらうのが狙い。</p>			

科目名			担当者	
視能矯正学総論			佐藤 かおり	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	大学併修等
1 年次・後期	講義	1 5 時間	必修 1 単位	なし

授業の目的と到達目標	<p>視能訓練士業務の根幹である斜視・弱視の基礎知識と両眼視を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両眼視の概念の知識を身につけることができる ・斜視と斜位の違いを説明することができる ・眼球運動を担っている外眼筋の解剖、作用を説明することができる ・斜視の病因から型を分類することができる ・弱視の病態を理解し、分類することができる
授業の概要 達成課題	<p>両眼視 — 体験も踏まえながら、用語の理解など基礎的な概念を学んでいく。</p> <p>眼球運動 — 外眼筋の解剖を学び、模型作成を行い作用を理解する</p> <p>斜視 — 予備知識として眼位について学んだ後、斜視の定義から治療法の概略の講義を行う。</p> <p>弱視 — まずは小児の発達と視力特性を学ぶ。その後、定義から治療の概略の講義を行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション・両眼視とは？</p> <p>第 2 週 両眼視の定義、両眼視の成立条件①</p> <p>第 3 週 両眼視の成立条件</p> <p>第 4 週 両眼視機能</p> <p>第 5 週 眼位の基礎知識</p> <p>第 6 週 斜視の定義、病因論</p> <p>第 7 週 斜視の分類</p> <p>第 8 週 斜視の種類</p> <p>第 9 週 斜視検査・治療法</p> <p>第 10 週 小児の視力特性</p> <p>第 11 週 弱視の定義・病因論</p> <p>第 12 週 弱視の分類</p> <p>第 13 週 弱視の検査・治療</p> <p>第 14 週 外眼筋の解剖（模型作り）</p> <p>第 15 週 外眼筋の作用・眼球運動の種類</p>	
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学 第3版：小林 義治 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p>
参考書	<p>授業の中で適宜指示</p> <p>プリント配布あり</p>
備考	

科目名			担当者	
視能矯正学各論 I			二本柳 淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	1 年次の眼光学・生理光学を基礎に、屈折矯正の基礎・応用について学ぶ。特に眼鏡とコンタクトレンズによる屈折矯正の理解を深め、光学的視能矯正の選択・組立てを可能にする。 臨床で実際に矯正ができる力を養う。 ※視能訓練士として、医療機関で実務経験のある教員が、屈折矯正について講義する。
授業の概要 達成 課題	光学的視能矯正の内容を理解し、知識をもとに必要な計算ができるようにする。 まず 1 年次の復習を確実に固め、症例に基づいた光学的視能矯正が考えられるようにする。次に理論的に適切な計算方法を用いて、矯正ができる力を習得する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 生理光学・眼光学の復習 第 2 週 屈折異常とは 第 3 週 屈折異常と矯正 第 4 週 調節 第 5 週 屈折矯正（眼鏡・コンタクトレンズ・その他） 第 6 週 屈折矯正（Knapp の法則他） 第 7 週 眼鏡① 第 8 週 眼鏡② 第 9 週 コンタクトレンズ① 第 10 週 コンタクトレンズ② 第 11 週 眼鏡合わせ（片眼矯正と両眼矯正） 第 12 週 不同視・不等像視 第 13 週 プリズム効果① 第 14 週 プリズム効果② 第 15 週 まとめ ＊授業の進行状況により変更になる場合があります。	
成績評価方法	・定期試験 100%
教科書	視能学（第 3 版／小林義治 他 編／文光堂） 屈折異常とその矯正（改訂第 7 版／所敬／金原出版）
参考書	理解を深めよう視力検査 屈折検査（松本富美子 他／金原出版） 視能学エキスパート 光学・眼鏡（第 2 版 松本富美子 他編／医学書院） 眼光学の基礎 / 西信元嗣/ 金原出版
備考	

科目名			担当者	
視能矯正学各論Ⅱ			安達 いづみ 吉田 清香	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・通年	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>斜視の種類・特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各斜視の特徴を説明できる。 検査原理、方法を理解し、検査法の選択ができる。 <p>大型弱視鏡による両眼視機能検査の検査法を習得する</p> <p>斜視手術の種類・特徴を理解する。</p> <p>※視能訓練士として医療機関に長年勤務していた教員が斜視・斜視検査について講義する。 眼科医として医療機関に勤務している教員が斜視手術について講義する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>まずは斜視の特徴を学ぶ。次に診断に必要となる両眼視機能の検査法を学び、その方法を習得する。後期では前期で身に付けた知識をもとに、それぞれの症例にあった検査の進め方を考えられるようにしていく。その後、斜視手術について学び、症例にあった術式を考えられるようにしていく。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	輻湊・AC/A 比について	第 16 週	大型弱視鏡 検査の実際②	
第 2 週	斜視の定義	第 17 週	大型弱視鏡 両眼視異常がある場合①	
第 3 週	内斜視①	第 18 週	大型弱視鏡 両眼視異常がある場合②	
第 4 週	内斜視②	第 19 週	斜視診断のための検査の進め方①	
第 5 週	外斜視①	第 20 週	斜視診断のための検査の進め方②	
第 6 週	外斜視②	第 21 週	斜視診断のための検査の進め方③	
第 7 週	上下斜視 (交代性上斜位 等)	第 22 週	斜視診断のまとめ	
第 8 週	回旋斜視・A-V 型斜視	第 23 週	斜視手術 (共同性斜視) ①	
第 9 週	微小斜視	第 24 週	斜視手術 (共同性斜視) ②	
第 10 週	斜視各論まとめ	第 25 週	斜視手術 (麻痺性斜視) ①	
第 11 週	大型弱視鏡 器機の構造・測定原理・検査目的	第 26 週	斜視手術 (麻痺性斜視) ②	
第 12 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方①	第 27 週	初診から斜視手術までの流れ	
第 13 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方②	第 28 週	斜視手術の実際 症例提示①	
第 14 週	大型弱視鏡 両眼視機能検査の進め方③	第 29 週	斜視手術の実際 症例提示②	
第 15 週	大型弱視鏡 検査の実際①	第 30 週	斜視手術まとめ	
成績評価方法	定期試験	100%		
教科書	視能矯正学 丸尾 敏夫 / 金原出版 視能学 丸尾 敏夫 / 文光堂			
参考書	授業で適宜指示、プリント配布			
備考				

科目名			担当者	
生理光学実習			鈴木 拓斗	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	実習	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>生理光学・眼光学等で学んだ知識を基に、レンズの作用を学ぶ。そして光学的検査・他覚的屈折検査の実際を知り、臨床の現場で必要とされる屈折検査の基礎を身に付けることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンズの作用・種類・特性が説明でき、度数の表記ができる。 ・レンズメータの基本的操作と結果について理解できる。 ・他覚的屈折検査の理論・種類・特徴・具体的方法が説明でき、実施できる。また、結果を読み取ることができる。 ・眼鏡やコンタクトレンズを学ぶことで、屈折矯正時の違いやそれぞれの役割を学ぶ。 <p>※視能訓練士としての実務経験を持つ教員が、講義・実習を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<p>眼光学系の理論を学び、他覚的屈折を矯正するレンズの理解を深める。レンズメータ測定や他覚的屈折検査等の実際の実習を行うことで度数表記、測定の方法等を学んでいく。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第 1 週	レンズの屈折力について	第 16 週	前期内容復習	
第 2 週	レンズの結像について	第 17 週	眼鏡の目的	
第 3 週	レンズの作用について①	第 18 週	眼鏡の特性	
第 4 週	レンズの作用について②	第 19 週	眼鏡の種類	
第 5 週	レンズ式とワーククロス①	第 20 週	眼鏡の測定方法・フィッティング	
第 6 週	レンズ式とワーククロス②	第 21 週	コンタクトレンズの種類・目的	
第 7 週	レンズメータの目的や使い方	第 22 週	コンタクトレンズの素材・特性	
第 8 週	他覚的屈折検査①	第 23 週	コンタクトレンズによる眼の影響	
第 9 週	他覚的屈折検査②	第 24 週	コンタクトレンズの処方時の検査	
第 10 週	検影法の原理	第 25 週	眼鏡とコンタクトレンズの違い	
第 11 週	検影法の検査・計算方法	第 26 週	グループ実習①	
第 12 週	グループ実習①	第 27 週	" ②	
第 13 週	" ②	第 28 週	" ③	
第 14 週	" ③	第 29 週	" ④	
第 15 週	前期内容まとめ	第 30 週	後期内容まとめ	
成績評価方法	<p>定期試験 80% ※定期試験で6割未満のものは再試験の対象である 提出物等 20%</p>			
教科書	<p>視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂/2022 屈折異常とその矯正/所敬/金原出版 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂 視能訓練士のための生理光学 自分で作るワークブック/川瀬芳克/2016</p>			
参考書	<p>New エssenシャル眼科学/丸尾俊夫/医歯薬出版 眼光学の基礎/西信元嗣他/金原出版 視力・屈折検査の進めかた/所敬・山下牧子/金原出版</p>			

科目名			担当者	
視覚生理学実習			三上 真里奈	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	実習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視覚生理学を基礎に光覚・視野検査について学び、技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光覚検査の方法を理解し、結果を読み取ることができる。 ・視覚伝導路と視野の対応から視野異常が説明できる。 ・視野検査の種類・特徴を理解し、正常視野の測定を行うことができる。 <p>被検者の気持ちを知り、配慮することができる。</p> <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、視覚の評価法について実習指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>前期の視覚生理学で学んだ基礎を基に光覚・視野検査について学ぶ。</p> <p>結果については、「正常」を理解した上で、「異常」を説明できるようにする。</p> <p>動的視野検査、静的視野検査では正常視野を測定できるように手技を身に付ける。</p> <p>相互実習では検査の手技を身につけるとともに、被検者を体験することで患者様に配慮したコミュニケーションの取り方も経験する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 視覚生理学の復習</p> <p>第2週 光覚異常</p> <p>第3週 光覚検査</p> <p>第4週 視野異常①</p> <p>第5週 視野異常②</p> <p>第6週 視野検査①</p> <p>第7週 視野検査②</p> <p>第8週 視野検査③</p> <p>第9週 実習説明</p> <p>第10週 相互実習①</p> <p>第11週 // ②</p> <p>第12週 実習振り返り</p> <p>第13週 // ③</p> <p>第14週 // ④</p> <p>第15週 総括</p>	
成績評価方法	定期試験 80%、実技・レポート 20%
教科書	<p>『視能学第3版』 小林義治 / 文光堂 / 2022</p> <p>『眼科検査ガイド第3版』 根木 昭 / 文光堂 / 2022</p> <p>『現代の眼科学 改訂第13版』 所 敬 / 金原出版 / 2013</p>
参考書	プリント配布
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語・携帯電話の使用は禁止です。 ・視覚生理学の続きの授業です。ノートの取り方を工夫しましょう。 ・相互実習では器械の取り扱いに注意し、不具合がでたときには速やかに申し出てください。 ・学ぶ姿勢を大切に1回1回の授業を真剣に受けましょう。

科目名			担当者	
視能矯正学特論			原口 翔太 他	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	大学併修等
3年次・後期	講義	45時間	必修 3単位	

授業の目的と到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る</p> <p>視能矯正学に必要な基礎知識を確認し、臨床でそれを発展させられるよう、理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚生理学、生理光学の基礎が理解できる ・両眼視機能と眼球運動が理解でき、その検査方法と検査データの見方がわかる ・屈折、調節に関する計算ができる <p>※視能訓練士の実務経験を持つ教員が、資格取得に向けた視能矯正学の講義を行う</p>
授業の概要達成課題	<p>視覚生理学、生理光学の基礎を問題を解きながら解説、理解を深め定着させる。</p> <p>また、両眼視機能と眼球運動についても症例を通して検査の実際・データの見方について解説していく。国家試験と臨床実習をうまくリンクさせ、理解を深め国家試験合格を図る</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	外眼筋の作用と眼球運動
第2週	両眼視の定義・成立条件と立体視
第3週	視覚生理学における光学・色覚・形態覚の基礎
第4週	〃 視野・両眼視・眼球運動
第5週	生理光学の基礎 光の性質・レンズ・プリズム
第6週	眼球光学
第7週	屈折・調節の異常と疾患
第8週	〃 検査法
第9週	〃 矯正（眼鏡・コンタクトレンズ・手術等）
第10週	主要眼疾患の基礎的知識とその治療（各部位ごとに）
第11週	〃 （斜視・弱視・眼球運動）
第12週	〃 （全身疾患と眼・心因性視覚障害）
第13週	神経眼的疾患とその検査
第14週	ロービジョンケアと失明予防
第15週	総合問題と解説
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学 第2版：丸尾敏夫 他、文光堂、2011</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014</p>
参考書	授業の中で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
薬理学			戸田 孝史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	なし

授業の目的と到達目標	薬理作用（主作用、副作用）、体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）等の薬剤の適応の基本的知識を理解する。その理解のもとで、眼科分野で用いられる散瞳薬、縮瞳薬、および抗感染症薬を中心に、各種薬剤の有効性と副作用、および適応症を理解する。 視能訓練士として臨床で使用する薬剤の基本的な知識を得ることを目的とする。
授業の概要達成課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の薬理作用（主作用、副作用）、体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）等の基本的知識を理解する。 2. 眼科分野で用いられる散瞳薬、縮瞳薬、および抗感染症薬等の有効性と副作用、および適応症を理解する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 薬理学の概念（医薬品の定義、薬物療法の目的）</p> <p>第 2 週 薬理作用と作用機序（主作用と副作用、薬物受容体）</p> <p>第 3 週 薬物の体内動態（薬物の吸収、分布、代謝、排泄、半減期）</p> <p>第 4 週 薬物の適用方法（点眼、全身投与、相互作用）</p> <p>第 5 週 薬物療法に影響を与える因子（老人、妊婦への投与、有害作用、薬害など）</p> <p>第 6 週 薬事法令と医薬品の管理（薬機法、麻薬及び向精神薬取締法）</p> <p>第 7 週 自律神経系作用薬 1（交感神経作動薬と遮断薬）</p> <p>第 8 週 自律神経系作用薬 2（副交感神経作動薬と遮断薬）</p> <p>第 9 週 緑内障治療薬（自律神経系薬剤、プロstaglandin誘導体等）</p> <p>第 10 週 中枢神経系作用薬（麻酔薬、鎮痛薬、向精神薬の作用と副作用）</p> <p>第 11 週 抗炎症薬（ステロイド性と非ステロイド抗炎症薬の作用と副作用）</p> <p>第 12 週 ホルモン系作用薬（糖尿病薬、甲状腺機能障害薬）</p> <p>第 13 週 循環器系、呼吸器系、消化器系作用薬の概略</p> <p>第 14 週 抗感染症薬（抗生物質、抗ウイルス薬）消毒薬</p> <p>第 15 週 点眼試験に用いる薬剤の概要</p>	
成績評価方法	成績は定期試験の得点（100%）で評価する
教科書	「わかりやすい薬理学 第4版」安原 一、小口 勝司／ヌーヴェルヒロカワ
参考書	
備考	授業中の私語、飲食、携帯電話、スマートフォンの使用を禁じます。

科目名			担当者	
視能検査学入門			三上 真里奈	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次 ・ 前期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視能検査学を学ぶ前段階として、視能訓練士としての心構えや眼科検査の実技的基礎知識、身だしなみ、各種検査機器を扱う上での注意等を学ぶ</p> <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、視能検査学入門を受け持つ</p>
授業の概要 達成課題	<p>眼科検査を行う上で、視能訓練士として大切なことをグループワークを通して考え、実習を通して身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として適切な身だしなみ・態度を学ぶ ・検査機器の取り扱い方法、安全に配慮した検査の進め方を学ぶ ・医療従事者として衛生管理の重要性を学ぶ ・視能訓練士としての心構え、患者への接遇を学ぶ
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 オリエンテーション、視能検査学とは</p> <p>第 2 週 眼科診療の流れ</p> <p>第 3 週 チーム医療とは①</p> <p>第 4 週 チーム医療とは②</p> <p>第 5 週 眼科に係る検査①</p> <p>第 6 週 眼科に係る検査②</p> <p>第 7 週 検査を行う上で大切なこと①</p> <p>第 8 週 検査を行う上で大切なこと②</p> <p>第 9 週 検査を行う上で大切なこと③</p> <p>第 10 週 検査を行う上で大切なこと④</p> <p>第 11 週 安全に配慮した検査、衛生管理について</p> <p>第 12 週 適切な身だしなみについて、レポートの書き方</p> <p>第 13 週 学内実習①</p> <p>第 14 週 学内実習②</p> <p>第 15 週 総括</p>	
成績評価方法	<p>グループワーク課題 (40%)</p> <p>身だしなみチェック (10%)</p> <p>定期試験、各授業での提出物 (50%)</p>
教科書	<p>視能学 第 3 版 丸尾敏夫/文光堂/2022</p> <p>眼科検査ガイド 第 3 版 根木昭/文光堂/2022</p>
参考書	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語、携帯電話の使用は禁止です。 ・積極的に意見を出し、積極的に授業に参加しましょう。 ・授業中は資料を配布することもあります。紛失しないようにノートを管理しましょう。 ・授業・実習では忘れ物をしないようにしましょう。

科目名			担当者	
視能検査学 I			庄司正和 他	常 勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
1 年次・後期	講義・実習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	視力検査・自覚的屈折検査の具体的な方法を学ぶ。 相互実習で検査技術を習得する。 視力検査・屈折検査の意義と検査方法が説明できる。 理論に基づいた正確な基本的測定法を理解し、実際に行うことができる。 自分の出した検査結果を考察することができる。 ※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が、視力検査・屈折検査について講義する。
授業の概要 達成 課題	視力検査・屈折検査の意義・必要性が分かる。 座学で得た知識が実習を交えることで技術として習得できる。 相互実習では、学んだ検査方法を実際に行う。 レポートで自分の手技とデータの考察までを行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	シラバス説明 視力の尺度と評価法
第 2 週	視力の種類・視力検査・検査の流れ
第 3 週	視力検査実習/実習結果提出
第 4 週	自覚的屈折検査
第 5 週	レンズ交換法
第 6 週	乱視の検査 ①乱視表
第 7 週	〃 ②クロスシリンダー
第 8 週	〃 ③乱視表とクロスシリンダーの実演
第 9 週	実習概要・記載方法
第 10 週	グループ別実習
第 11 週	グループ別実習
第 12 週	グループ別実習
第 13 週	グループ別実習
第 14 週	実技試験
第 15 週	まとめ
成績評価方法	定期試験 90% ※定期試験で6割未満のものは再試験の対象である レポート 10%
教科書	視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂
参考書	視能矯正マニュアル (丸尾敏夫他 メディカル葵出版) 理解を深めよう視力検査 屈折検査 (松本富美子他 金原出版) 目で見る視力・屈折検査の進め方 (所敬 他 金原出版) 新しい眼光学の基礎 (西信元嗣他) 金原出版/2008
備考	

科目名			担当者	
視能検査学Ⅱ			鈴木 拓斗	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義・演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>眼圧、隅角、前房、眼底、涙器、点眼に関わる基礎知識を習得し、校内実習を通し理解を深める。眼圧、隅角、前房、眼底、涙液検査の方法・特徴を理解する。</p> <p>※視能訓練士としての臨床経験を持つ教員が、視能検査学Ⅱの講義・実習指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>講義にて各検査に関わる解剖の復習、種類・特徴・使用方法・結果の見方などを理解する。校内実習を行うことで講義内容の理解を深める。</p> <p>校内実習では、臨床を意識し被検者への分かりやすい説明を行い、正確な検査結果を出せるように検査技術を習得する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 全体のガイダンス、眼圧について</p> <p>第 2 週 眼圧検査について</p> <p>第 3 週 相互実習（非接触眼圧計）</p> <p>第 4 週 隅角の解剖、検査について、レーザーフレアメーターについて</p> <p>第 5 週 涙液について</p> <p>第 6 週 涙液検査について</p> <p>第 7 週 眼底検査の目的・種類・方法</p> <p>第 8 週 眼底の観察ポイント、スケッチ方法、課題実習の説明</p> <p>第 9 週 点眼について</p> <p>第 10 週 課題実習①</p> <p>第 11 週 課題実習②</p> <p>第 12 週 課題実習③</p> <p>第 13 週 課題実習④</p> <p>第 14 週 実技試験</p> <p>第 15 週 総括</p>	
成績評価方法	定期試験（80%）、レポート（10%）、実技試験（10%）の総合評価
教科書	『視能学 第3版』 小林義治/文光堂/2022 『眼科検査ガイド 第3版』 根木昭/文光堂/2022
参考書	授業の中で適宜指示します。プリント配布することもあります。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習中の私語、携帯電話の使用は禁止です。 ・授業後は早めに復習し、わからないことはそのままにしないようにしましょう。 ・課題実習では白衣着用です。医療従事者としてふさわしい身だしなみを心がけましょう。

科目名			担当者	
視能検査学Ⅲ			庄司 正和 他	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講義・演習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	1 年次後期の視能検査学Ⅰを基礎に、視力・屈折・調節検査の理解を深め、技術を習得する ・特殊な視力検査についてその理論・方法が説明でき、実際に行うことができる。 ・調節の正常・異常が理解でき、その検査を実際に行うことができる。 ・検査結果を正確に矛盾なく導くことができる。 ・患者様に対し、わかりやすい説明やより快適な検査方法の工夫をすることができる。 ※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が、視力・屈折検査、調節検査について実習を交えて講義する。
授業の概要 達成課題	調節に関する用語・公式を理解するための講義を行う。 1 年次後期に学んだ視力・自覚的屈折検査の復習から、より高度な検査へと導く。基礎知識を確認しながら、応用的な技術を講義と実習形式で身に付ける。検査のやり方により、結果に違いが出てくることを体験することで、1 年次よりも理解を深め、臨床への意識を高める。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 本講義の目的（シラバス説明）1 年次の復習その他の確認 第 2 週 臨床での視力検査・自覚的屈折検査（他覚的屈折値の利用）① 第 3 週 臨床での視力検査・自覚的屈折検査（他覚的屈折値の利用）② 第 4 週 調節のしくみと異常 第 5 週 調節検査① 第 6 週 調節検査② 第 7 週 PH 視力検査・両眼開放視力検査・二色テスト 第 8 週 近見視力検査と屈折検査 第 9 週 特殊な視力検査（ ETDRS chart・縞視力・コントラスト視力 ） 第 10 週 心因性視能障害 第 11 週 実習説明 第 12 週 実習① 第 13 週 実習② 第 14 週 実習③ 第 15 週 まとめ * 授業の進行状況により順番が変わります	
成績評価方法	定期試験 90% ※定期試験で6割未満のものは再試験の対象である レポート・実習記録 10%
教科書	視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂
参考書	屈折異常と眼鏡矯正 改訂第7版/大鹿哲郎 /中山書店 理解を深めよう視力検査 屈折検査/松本富美子他/金原出版 視能学エキスパート 光学・眼鏡/日本視能訓練士協会/医学書院
備考	視力検査・自覚的屈折検査及び調節検査の最も臨床的かつ理論的に重要な部分の学びとなる。視覚機能の正確な診断のための理解を自らの思考と実践で、しっかりつかみとって頂きたい。

科目名			担当者	
視能検査学IV			三上真里奈 鈴木拓斗、 一迫詩織	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義・演習	45 時間	必修2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	術前検査、眼底検査、電気生理検査に関する基礎知識、検査技術を習得する 検査と疾患の結びつきを強化し、理解を深める ※視能訓練士としての臨床経験を持つ教員が、視能検査学IVの講義・実習指導を行う			
授業の概要 達成課題	講義にて術前検査、眼底検査、電気生理検査の種類・特徴・使用方法・結果の見方などを理解し、 校内実習を行うことで講義内容の理解を深める。 校内実習では臨床を意識し、被検者への分かりやすい説明を行い、機械の操作を安全かつスムーズに行えるよう検査技術を習得する。 また、検査に必要な解剖と対象の疾患を復習し、プラスアルファの知識を肉付けする。さらに症例会を通し、検査と疾患との結びつきを強化する。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	シラバス説明、光干渉断層計①			
第2週	光干渉断層計②			
第3週	術前検査（眼軸長測定、角膜内皮細胞検査）			
第4週	光学式眼軸長測定			
第5週	術前検査実習			
第6週	電気生理検査（ERG）			
第7週	電気生理検査（EOG、ENG、EMG）			
第8週	電気生理検査（VEP）			
第9週	蛍光眼底造影検査①			
第10週	蛍光眼底造影検査②、眼底自発蛍光撮影、広角眼底検査、実習説明			
第11週	相互実習①			
第12週	相互実習②			
第13週	相互実習③			
第14週	症例検討			
第15週	まとめ			
成績評価方法	定期試験 100%			
教科書	『視能学 第3版』 『現代の眼科学 改定第13版』 『眼科検査ガイド 第3版』		丸尾敏夫/文光堂/2022 所敬/金原出版/2018 根木昭/文光堂/2022	
参考書	配布プリント			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習中の私語、携帯電話の使用は禁止です。 ・授業後は早めに復習し、わからないことはそのままにしないようにしましょう。 ・実習では白衣着用です。医療従事者としてふさわしい身だしなみを心がけましょう。 			

科目名			担当者	
視能検査学実習 I			庄司 正和 他	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・後期	実習	45 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>臨床実習に出るために必要な手技・知識を実習を通して身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力検査の理論と実際 ・自覚的屈折検査の理論と実際（放射線乱視表・クロスシリンダー） ・他覚的屈折検査の理論と実際（オートレフケラトメータ・検影法等） ・調節検査の理論と実際 ・レンズメータの実際 <p>※視能訓練士として医療機関で実務経験のある教員が視力検査・屈折検査等を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	2 年次前期までに学んだ検査法を相互実習を通し、より実践的な技法、患者接遇を学び、臨床実習に備える。課題を通して自ら問題意識を持ち、正常・異常の判断及び検査に対する知識の定着を図る。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	実習オリエンテーション
第 2 週	検影法講義（オーバースキア）
第 3 週	相互課題実習（視力検査・屈折検査）
第 4 週	相互課題実習
第 5 週	相互課題実習
第 6 週	相互課題実習
第 7 週	屈折検査 実習振り返り
第 8 週	調節検査講義 レンズメータ講義（遠近両用・プリズム）
第 9 週	相互課題実習（視力検査・屈折検査・調節検査）
第 10 週	相互課題実習
第 11 週	相互課題実習
第 12 週	相互課題実習
第 13 週	実技試験
第 14 週	実技試験
第 15 週	まとめ
成績評価方法※	筆記試験（80%）、実技試験（20%） ※筆記試験・実技試験ともに6割を超えていることを合格の条件とする
教科書	視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂
参考書	授業で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
視能検査学実習Ⅱ			三上 真里奈 他	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	実習	45 時間	必修 1 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>眼科一般検査（眼圧検査、眼底検査を中心とする）、視野検査などの検査技術の向上と、検査結果の読み取りを身に付ける</p> <p>【主な検査の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非接触眼圧計の検査をスムーズに行い、精度をあげる。 ・アイケアの測定方法を身に付けることができる。 ・眼底カメラ撮影では、固視誘導ができ、撮影したい部位を撮影したい画角で撮影できる。また、アーチファクトへの対処ができる ・ゴールドマン視野検査では、正常視野の測定の検査時間の短縮をすることができる。また、異常視野の測定法を身に付けることができる ・ハンフリー視野検査では、アーチファクトへの対処を学び、正確な結果を出すことができる <p>※視能訓練士として実務経験のある教員が、実習・講義を通して検査技術を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>視能検査学Ⅱ・Ⅳ及び視覚生理学実習で学んだ検査法の相互実習を通し、実践的な技法、患者接遇を学び、臨床実習に備える。課題を通し、自ら問題意識をもつこと、正常、異常の診断及び検査に対する知識の定着を図る。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	実習目的・目標・課題 説明
第 2 週	眼底検査・眼圧検査の復習（講義）
第 3 週	相互課題実習
第 4 週	静的視野検査（講義） アーチファクトの原因と対処法・検査プログラム
第 5 週	相互課題実習
第 6 週	動的視野検査（講義） 異常視野の測定方法・疾患と視野の関係
第 7 週	相互課題実習
第 8 週	相互課題実習
第 9 週	相互課題実習
第 10 週	相互課題実習
第 11 週	相互課題実習
第 12 週	相互課題実習
第 13 週	実技試験
第 14 週	実技試験
第 15 週	まとめ
成績評価方法※	<p>定期試験（80%）、実技試験（20%）</p> <p>※筆記試験・実技試験ともに6割を超えていることを合格の条件とする</p>
教科書	<p>視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂</p> <p>眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂</p>
参考書	授業で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
視能検査学特論			二本柳 淳子 他	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・後期	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る 視能訓練士になるために必要な検査学を総合的に深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の検査の内容と方法が説明できる ・一般的眼科検査の基礎から応用までを理論的に理解し、問題が解ける ・国家試験合格レベルまで達することができる <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、資格取得に向けた検査学について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>今まで学んだ検査学の知識をまとめながら深めていく。それぞれの検査や疾患との関連を意識させる講義を行い、国家試験で求められる実力を養成する。教科者を使い、より専門的な文章の読み書きに慣れさせ、理論的思考を促す。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	医療面接の方法と診療録
第2週	医の倫理とインフォームドコンセント
第3週	視力検査と屈折検査（自覚的・他覚的）
第4週	レンズ
第5週	近見反応と調節・輻湊
第6週	視力検査と屈折検査 方法とデータの見方
第7週	〃 一般検査と特殊検査
第8週	視野検査と視覚路、色覚検査
第9週	視野検査（動的と静的検査）
第10週	前眼部・眼圧・隅角検査と関連疾患
第11週	眼底検査と画像診断
第12週	両眼視機能検査と眼位検査
第13週	眼球運動検査と臨床像
第14週	電気生理学的検査
第15週	眼薬理学
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>視能学 第2版：丸尾敏夫 他、文光堂、2011 視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012 屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014</p>
参考書	授業の中で適宜指示
備考	

科目名			担当者	
眼疾病学			萱場幸子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視能訓練士として臨床現場で必要な眼疾患の知識について、視能障害の病態・原因を解剖生理に沿って学び、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状や所見、検査結果から眼疾患を想定できる。 ・疾患に必要な検査・訓練を適切に行う為の知識を身につける。 <p>※臨床経験を持つ眼科医が眼疾病について講義する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず眼の解剖・生理に基づいた眼疾患の理解を図る。各部位ごとに学んだ後に実際の症例を知ることで、臨床的な理解を深める。</p> <p>手術や薬物等治療にも触れながら、視能訓練士が携わる検査・訓練とのつながりを理解する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 概略・解剖	第 16 週 網膜
第 2 週 解剖	第 17 週 //
第 3 週 眼瞼結膜	第 18 週 //
第 4 週 //	第 19 週 //
第 5 週 涙腺	第 20 週 ぶどう膜
第 6 週 角膜	第 21 週 眼科手術
第 7 週 斜視	第 22 週 薬
第 8 週 弱視、小児	第 23 週 全身疾患と眼
第 9 週 水晶体	第 24 週 //
第 10 週 白内障手術	第 25 週 //
第 11 週 緑内障	第 26 週 まとめと症例検討
第 12 週 外傷	第 27 週 //
第 13 週 まとめと症例検討	第 28 週 //
第 14 週 //	第 29 週 //
第 15 週 //	第 30 週 //
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	<p>現代の眼科学：所 敬、金原出版 2018</p> <p>視能学第 3 版：小林義治、臼井千恵 他、文光堂 2022</p> <p>NEW エッセンシャル眼科学第 8 版：丸尾敏夫 医歯薬出版 2014</p>
参考書	病気がみえる 12 眼科：メディックメディア 2019
備考	<p>視能矯正の中では「視能障害学」として重要な分野である。障害が理解できなければ、検査も訓練も出来ないなので、授業で使う資料や複数の教科書の写真、データなどを参考に楽しみながらアクティブに勉強してほしい。理解できないところはそのままにしないで、積極的に質問されたい。復習が重要。</p> <p>*授業中、私語・スマホの使用は禁止。礼儀に反することはしない。</p>

科目名			担当者	
神経眼科学			高久 容一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視能訓練士は、様々な視覚異常を有する患者の正確な検査と治療訓練が求められるので、眼疾患の基礎を1年次に学んだあと更に実際の視能矯正業務に必要な神経眼的疾患の理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚にかかわる総合的な仕組みを理解する ・ 神経の相互支配を理解し障害と疾患を理解する <p>※臨床経験を持つ眼科医が非常勤講師として、『神経眼科』の専門科目を担当する。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経眼的疾患の症例を理解できる ・ 神経眼的疾患の検査・治療が理解できる 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	神経眼科の基礎	解剖と生理	第16週	外眼筋の生理
第2週	神経眼科の基礎	脳神経の解剖と生理	第17週	外眼筋の障害と疾患
第3週	神経眼科の基礎	脳血管 画像診断	第18週	外眼筋障害と症状
第4週	視覚入路	網膜の構造	第19週	核性疾患
第5週	視野		第20週	滑車神経障害
第6週	視野障害		第21週	筋無力症
第7週	疾患と視野異常		第22週	眼窩骨折
第8週	瞳孔の生理		第23週	核間麻痺
第9週	瞳孔の障害	入路障害	第24週	上方注視麻痺・輻輳麻痺
第10週	瞳孔の障害	RAPD 動眼神経麻痺	第25週	Duane 症候群
第11週	瞳孔の障害	瞳孔緊張症、 アーガイルロバートソン症候群	第26週	Brown 症候群
第12週	動向の障害	交感神経麻痺 ホルネル症候群	第27週	甲状腺眼症
第13週	瞳孔不同の鑑別		第28週	眼振
第14週	視神経疾患	うっ血乳頭他	第29週	眼球突出
第15週	視神経疾患	虚血性視神経症他	第30週	遺伝・遺伝性疾患
成績評価方法	期末試験 100%			
教科書	現代の眼科学 所 敬 / 金原出版			
参考書	授業で適宜指示、プリント配布			
備考				

科目名			担当者	
ロービジョン学			二本柳淳子・阿部 直子・安藤 修 二・金井 夕美絵・多田 大介・狩野 敏彦・中澤由美子・小松伸久	常 勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・後期	講義・演習	30 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>眼科的知識・検査法をふまえたロービジョンケアを理解し、方法を学び技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロービジョンの定義を説明できる。 ・身体障害者障害程度等級表を理解し、診断に必要な検査を行うことができる。 ・眼科におけるロービジョンサービスの概要を説明できる。 ・視覚補助具について使用方法を理解し、選択することができる。 ・ロービジョン者の気持ち・生活・立場を思いやることができる。 <p>* 視能訓練士としての臨床経験を持つ教員が主となり、現場でのロービジョンケアを多面的に教える。オムニバスで、視覚障害者当事者、患者に関わる社会福祉士、歩行訓練士、視覚支援学校教員、眼科機器取り扱い業者が講師として参加する。</p>
授業の概要 達成 課題	<p>まず、ロービジョンについて体験的に理解をする。そして、そのケアのために視能訓練士として必要な理論・方法・技術を習得する。現場でロービジョンケアに携わる歩行訓練士・社会福祉士・当事者から現状を知るとともに、自分なりの課題を得る。実習を交えながら学ぶことで、ロービジョン者の心に寄り添う気持ちを育てる。視覚補助具の種類と使い方を学び、ケアに役立てられるようにする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 本講義の目的（シラバス説明）/ロービジョンとは 第 2 週 視覚障害体験 レポート提出 ① 第 3 週 視覚障害とリハビリテーションの考え方 第 4 週 視覚障害当事者から レポート提出 ② 第 5 週 ロービジョンケアにおける視能訓練士の役割 第 6 週 ロービジョンケアの実際/ロービジョンの原因疾患 第 7 週 NPO 法人 アイサポート仙台の活動 第 8 週 ロービジョン者の公的補助/身体障害者手帳 第 9 週 視能訓練士のロービジョンケア ① - 視機能評価 第 10 週 視覚補助具について 光学的補助具・非光学的補助具・その他 第 11 週 スマイルワン仙台の活動と視覚障害者の誘導及び介助/体験実習 第 12 週 宮城県立視覚支援学校の教育活動・視覚障害者の職業自立と理療・点字の基礎 第 13 週 視能訓練士のロービジョンケア ② 第 14 週 視能訓練士のロービジョンケア ③ 第 15 週 本講義まとめ</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(レポート・ボランティア) 20% ・定期試験 80%
教科書	<p>視能学第3版/小林義治他/文光堂/2022 新しいロービジョンケア/加藤聡・山本修一・新井三樹/メジカルビュー社</p>
参考書	<p>私にもできるロービジョンハンドブック/新井三樹/メジカルビュー社 ロービジョンの総合的リハビリテーション/田淵昭雄/自由企画出版</p>
備考	<p>ロービジョンを体験的に理解し、臨床の現場でどう対応していくかの基礎を作るため、積極的な授業参加と想像力の発揮を期待する。自分の考えを文章表現、発表できるようにしたい。国家試験にも必ず出題される分野なので、その意識も必要。</p>

科目名			担当者	
視能訓練学 I			佐藤 かおり	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義・演習	45時間	必修2単位	有

授業の目的と到達目標	<p>1年次後期で学んだ視能矯正学総論を基礎に、眼位・両眼視の理解を深め、技術を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眼位検査の種類、検査方法、診断方法を説明することができる ・固視状態を確認し、眼位の定性、定量を行うことができる ・両眼視機能について理解し、網膜対応異常および複視について説明することができる ・両眼視機能検査の種類・特性を理解し、検査し判定を正しく行うことができる <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、視能矯正に関わる検査について講義・演習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>初めに斜視の検査の基本である固視・眼位検査について学ぶ。特に遮閉試験では検査目的を理解し眼位の判定を行ない、技術習得を目指す。</p> <p>両眼視についてはその機能と異常の基礎をしっかりと身に付け、それぞれを説明できるようにする。また、検査では検査法の習得だけでなく、前半に行う眼位検査の結果と合わせての結果の判定を行い、説明できるように理解を深める。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 オリエンテーション、総論の復習</p> <p>第2週 固視・固視検査</p> <p>第3週 眼位検査の種類・単眼性眼位検査（γ角について）・偽斜視</p> <p>第4週 プリズムについて・眼位検査（角膜反射法）</p> <p>第5週 遮閉試験①</p> <p>第6週 遮閉試験②</p> <p>第7週 遮閉試験③ 実習</p> <p>第8週 遮閉試験④ 実習・実技試験</p> <p>第9週 両眼視の基礎</p> <p>第10週 両眼視機能</p> <p>第11週 両眼視機能の異常①（網膜対応異常）</p> <p>第12週 両眼視機能の異常②（複視・抑制）</p> <p>第13週 両眼視機能検査の意義・種類</p> <p>第14週 立体視検査</p> <p>第15週 網膜対応検査</p>	
成績評価方法	試験 100%（実技試験、中間試験、定期試験の総合評価）
教科書	<p>視能学第3版/丸尾敏夫</p> <p>視能矯正学改訂第3版/丸尾敏夫</p>
参考書	<p>視能学エキスパート 視能訓練学</p> <p>他 授業の中で適宜指示します。プリント配布することもあります。</p>
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅱ			佐藤 かおり	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義・演習	45 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>眼球運動に必要な基礎知識とその異常についての知識を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外眼筋、神経支配を解剖学的に理解し、外眼筋の作用を考え、説明することができる。 ・神経麻痺の場合の自覚的と他覚的所見を考え、説明することができる。 <p>各種眼球運動検査法を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査の種類および検査方法を知ることができる ・結果の評価、読み取りができる ・眼球運動神経麻痺において、典型的な結果を理解し説明できる <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、眼球運動に関わる基礎・検査の講義・演習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、外眼筋の解剖を学び、作用をしっかりと理解する。</p> <p>次に外眼筋の作用を理解した上で、外眼筋麻痺における自覚症状、他覚所見を取り上げ、その1つ1つを説明できるようにする。</p> <p>後半部では、まず眼球運動検査の流れを理解し、それぞれの検査の特徴、方法、結果について学ぶ。検査法だけでなく、結果の解釈も正確にできるようにする。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 全体のガイダンス / 眼球運動（役割、種類）</p> <p>第2週 眼筋の解剖・作用</p> <p>第3週 単眼眼球運動・法則 / 両眼眼球運動・法則</p> <p>第4週 眼球運動経路とその障害</p> <p>第5週 外眼筋麻痺の他覚所見</p> <p>第6週 外眼筋麻痺の自覚症状</p> <p>第7週 眼球運動検査の流れ、眼球運動の視診（むき、ひき）、輻湊運動、反射運動</p> <p>第8週 Bielschowsky 頭部傾斜試験、Parks 3step test</p> <p>第9週 Hess 赤緑試験</p> <p>第10週 注視野（フェルステル視野計、ゴールドマン視野計）</p> <p>第11週 9方向眼位の定量（プリズムカバーテスト、大型弱視鏡）①</p> <p>第12週 " " ②</p> <p>第13週 牽引試験</p> <p>第14週 眼球運動に関わる電気生理検査（EOG・EMG・ENG）</p> <p>第15週 画像診断（X線・CT・MRI） / まとめ</p>	
成績評価方法	筆記試験 100%（中間試験＋定期試験）
教科書	<p>眼科検査ガイド 第3版：根本昭 他、文光堂、2022</p> <p>視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p>
参考書	<p>授業の中で適宜指示</p> <p>プリント配布あり</p>
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅲ			三浦 歌奈子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	講義	15 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	臨床で弱視患者の検査・診断・治療に必要な知識技術を理解する。 ・弱視の原因、病態を理解し、説明することができる ・発達に応じた必要な検査を選択することができる ・治療法を理解し、分類別を選択することができる ※視能訓練士として臨床経験のある教員が、弱視について講義する
授業の概要 達成課題	視能矯正学総論で学んだ正常な視覚の発達・弱視の分類・原因を復習する。そして、各分類の病態について学ぶ。病態を理解することで、診断するために必要な検査が理解できる。治療については、開始時期の重要性を理解し、それぞれの方法を学ぶ。そして、分類別にどの治療が適しているか考えられるようにする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 弱視とは 弱視の定義 第 2 週 視機能の発達 第 3 週 屈折異常弱視 第 4 週 不同視弱視 第 5 週 斜視弱視 第 6 週 微小斜視弱視 第 7 週 形態覚弱視 第 8 週 検査① 第 9 週 検査② 第 10 週 検査③ 第 11 週 検査④ 第 12 週 治療① 第 13 週 治療② 第 14 週 治療③ 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	視能学第 2 版/丸尾敏夫、 視能矯正学改訂第 3 版/丸尾敏夫
参考書	授業の中で適宜指示します。プリント配布することもあります。
備考	・私語、携帯電話の使用は禁止です。 ・自ら考えるくせをつけ、学ぶ姿勢を大切に真剣に授業を受けましょう。 ・必要に応じて小テストを行います。

科目名			担当者	
視能訓練学Ⅳ			二本柳 淳子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	15 時間	必修1 単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広義と狭義の視能矯正の概要を知り、正常な両眼視を獲得する方法（検査・診断・訓練）を理解する。 ・視能矯正に必要な視覚の発達とその検査について説明できる。 ・斜視、弱視における視能矯正法の種類、内容について説明でき、臨床で多く用いられる方法を実際に行うことができる。 <p>* 視能訓練士として臨床経験のある教員が、その主業務である視能矯正について講義する。</p>			
授業の概要達成課題	<p>まず視能矯正の基となる、視覚の発達から視覚生理学を復習し、検査・診断・治療法を通して視能矯正を理解する。その後狭義の視能矯正について、特に訓練を中心にその目的、内容を詳しく解説する。訓練について書かれた論文を読み解きながら、自ら視能矯正について考えることのできる力を育む。</p>			
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第 1 週 本講義の内容とシラバス説明。視能矯正とは。基本的知識の復習。</p> <p>第 2 週 視覚の発達と臨界期</p> <p>第 3 週 幼小児の検査と診断</p> <p>第 4 週 視覚生理学</p> <p>第 5 週 弱視概論</p> <p>第 6 週 弱視の検査、診断、治療、訓練</p> <p>第 7 週 狭義のPleoptics（実習①）</p> <p>第 8 週 斜視概論</p> <p>第 9 週 斜視の検査、診断、治療、訓練</p> <p>第 10 週 狭義のOrthoptics</p> <p>第 11 週 訓練の事例検討（論文抄読）</p> <p>第 12 週 視能訓練まとめ</p> <p>第 13 週 視能訓練実習（実習②）</p> <p>第 14 週 視能訓練実習（実習③）</p> <p>第 15 週 まとめ</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 90% ・提出物 10% 			
教科書	<p>視能学第3版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美/文光堂/2022</p> <p>視能矯正学 改訂第3版/丸尾敏夫/金原出版/2012</p>			
参考書	<p>視能学エキスパート 視能訓練学/日本視能訓練士協会/医学書院</p>			
備考	<p>視能訓練士の仕事として、主要な分野である。今まで学んできた知識を基に視能矯正が何であるか、先人の考えを学ぶとともに自分で考えてほしい。検査法、訓練法についてはその核となる考え方を身に着けるよう、理論を理解するよう努力してほしい。</p>			

科目名			担当者	
視能訓練学実習 I			佐藤 かおり 他	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	実習	45時間	必修1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>眼位、両眼視機能検査、眼球運動検査法を習得し、結果の読み取りをする 各種検査法の目的を明確にし、結果を解釈することができる 検査をスムーズに行うことができる 麻痺がある場合の結果の予測、解釈をすることができる 症例にあわせた検査の選択ができる</p> <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が視能矯正分野に関わる検査の指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>講義最初に前期で学んだことの復習を行い、基礎知識の確認を行う。 その後の実習では、視能訓練学 I・II で学んだ眼位、両眼視機能検査、眼球運動検査の相互実習を行う。 検査手技を身につけると共に、それぞれの関連性を考えられるようにする。 また、臨床実習に向け検査態度、言葉遣いについても考え行動できるようにする</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 全体のガイダンス・AC/A比① 第2週 AC/A比② 第3週 眼位検査（遮閉試験・大型弱視鏡）・眼球運動検査（視診、Hess、注視野） 第4週 相互実習（AC/A比・眼球運動検査）・演習課題（眼球運動） 第5週 〃 第6週 自覚的眼位検査 第7週 立体視検査 第8週 網膜対応検査 第9週 相互実習（立体視検査・9方向眼位の定量） 眼位検査実技チェック 第10週 〃 第11週 網膜対応検査 復習 第12週 相互実習（網膜対応検査・眼位検査） 第13週 〃 第14週 多目的両眼視機能検査 第15週 プリズム順応検査・まとめ</p>	
成績評価方法	<p>定期試験 80% 実技試験 20% *筆記、実技 両者とも6割超えていることが合格条件</p>
教科書	<p>視能学第3版/丸尾敏夫、視能矯正学改訂第3版/丸尾敏夫 眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂</p>
参考書	
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学実習Ⅱ			佐藤 かおり	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2年次・後期	実習	45時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	<p>神経眼科に関わる検査を習得し、疾患と関連付けて判定することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に応じた外眼部検査を実施することができる ・瞳孔検査、中心フリッカー等 視神経疾患に関わる検査の習得をする ・輻湊・開散について理解し、関連の検査法を行い、結果を検討することができる ・眼振の検査法・治療法を理解する <p>斜視の治療（プリズム療法、薬物療法、手術療法 等）を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜視のプリズム療法（合成、偏心）について理解する ・薬物療法ではボツリヌス治療を主に理解する ・斜視手術の術式を理解する <p>※視能訓練士として臨床経験のある教員が、神経眼科検査及び斜視治療の講義・実習を行う</p>
授業の概要 達成課題	<p>視能訓練学Ⅱで学んだ基礎をふまえ、輻湊・開散の検査・障害について理解を深める。 眼瞼・眼窩疾患を理解し、外眼部検査を行うことができるようにする。 瞳孔に関係する神経経路を知り、検査法を学び、結果の判定を行うことができるようにする。 外眼筋の作用を復習し、A-V型斜視の原因、治療の考え方を説明できるようにする 斜視治療の中でもプリズム療法、薬物、手術療法について学び、臨床実習、国家試験に向けて基礎を身につける。 眼振の基礎を理解し、検査・治療の知識をつける</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	全体ガイダンス / 輻湊・開散の復習
第2週	輻湊の単位・輻湊検査
第3週	輻湊・開散の障害
第4週	眼瞼下垂・眼球突出
第5週	外眼部検査（瞼裂幅測定、眼瞼挙筋機能検査、眼球突出度検査）
第6週	視神経疾患の鑑別診断
第7週	瞳孔検査・瞳孔異常
第8週	中心フリッカー
第9週	斜視の治療（薬物療法・プリズム療法）
第10週	斜視の治療（手術①）*A-V型斜視の復習
第11週	斜視の治療（手術②）
第12週	斜視の治療（手術③）
第13週	眼振の病態
第14週	眼振の検査
第15週	眼振の治療
成績評価方法	筆記試験 100%
教科書	眼科検査ガイド第3版/根木昭/文光堂 視能学 第3版：丸尾敏夫 他、文光堂、2022 視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012
参考書	授業の中で適宜指示 プリント配布あり
備考	

科目名			担当者	
視能訓練学特論			佐藤 かおり 他	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・後期	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>国家試験に合格するための知識の集大成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱視斜視分野の基礎から臨床的応用までを理解する ・重要な点を総合的な問題を解く力をつけるための講義で再確認し、定着させる ・問題解決で合格ラインに到達する <p>※視能訓練士として臨床経験を持つ教員が、資格取得に向けた訓練学について講義する。</p>
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・弱視斜視の成因、種類についての講義と基礎問題の解説 ・弱視斜視の診断、治療、両眼視訓練の講義と基礎問題の解説 ・弱視斜視の臨床症例の診断から治癒までの総合的な講義と応用問題の解説
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	小児の視力発達、弱視の定義、原因、病態、弱視の種類
第2週	弱視の検査（屈折検査、眼位検査、固視検査）
第3週	弱視の治療（プレオプティクス、屈折矯正、遮閉法）
第4週	弱視の治療（ペナリゼーション、その他の訓練法）
第5週	斜視総論（共同性・非共同性斜視、偽斜視、斜視の種類）
第6週	斜視の検査（眼位、眼位検査）
第7週	AC/A比、AC/A比検査
第8週	両眼視機能
第9週	両眼視検査（立体視、立体視検査）
第10週	両眼視検査（網膜対応、網膜対応検査）
第11週	大型弱視鏡検査
第12週	融像検査（プリズム融像幅、4∠BOT）
第13週	総合問題・解説
第14週	〃
第15週	〃
成績評価方法	定期試験 100%
教科書	視能学 第2版：丸尾敏夫 他、文光堂、2011 視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012
参考書	視能学エキスパート 視能訓練学 若山暁美 他 医学書院 2018 他
備考	

科目名			担当者	
視能臨床実習 I			二本柳 淳子 他	常勤・非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・前期	講義	315時間	必修 7単位	有

授業の目的と到達目標	<p>学内実習で習得した検査及び視能矯正を実習施設（臨床現場）で学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士として基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上と充実を図る。 ・学校で学んだ知識・検査技術の臨床での確認と向上を図る。 ・患者の心理を理解し、その接し方を習得する。 ・検査結果を読み取り、疾患に対する総合的理解を深める。 ・他の医療関係職を理解し、医療チームの一員としての役割と責任を学び、コミュニケーション力を身に付ける。 <p>※5年以上の臨床経験を持つ教員が、実習指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習で学んだ内容を日誌にまとめ、実習内容の再確認や補完、疑問点の解決を図る。 ・患者の訴えから検査・診断・治療を通して、眼科診療の実際を知り、疾患を理解する。 ・患者1人1人に合わせた対応、工夫を学び、検査・訓練の技術を身につける。
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>2023/6/1 ～2023/7/28 の間の 315 時間 (各実習施設の計画による)</p>	
成績評価方法	実習評価表の判定基準に基づく
教科書	
参考書	<p>視能学 第2版：丸尾敏夫 他、文光堂、2011</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>視能検査ガイド 第2版：根本 昭、文光堂、2016</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014 等</p>
備考	

科目名			担当者	
視能臨床実習Ⅱ			二本柳 淳子 他	常勤・非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3年次・前期	講義	315時間	必修 7単位	有

授業の目的 と 到達目標	<p>視能臨床実習Ⅰを踏まえた、よりレベルの高い検査及び視能矯正を実習施設で学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視能訓練士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上と充実を図る。 ・学校と前期実習で学んだ知識・検査技術をもとに臨床での実施の具体的方法を習得する。 ・患者の心理を理解し、その接し方を習得する。 ・疾患に対する総合的理解を深め、症例検討できる力を養う。 ・他の医療関係職との相互理解、臨床現場での連携の実践を学ぶ。 <p>※視能訓練士として5年以上の臨床経験を持つ教員が、実習指導を行う</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習で学んだ内容を日誌にまとめ、実習内容の再確認や補完、疑問点の解決を図る。 ・患者の訴えから検査・診断・治療を通して、眼科診療の実際を知り、疾患を理解する。 ・患者1人1人に合わせた対応、工夫を学び、検査・訓練の技術を身につける。 ・臨床で得た課題や学んだことから視能訓練士としての自分の将来像を考える。
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>2023/8/1 ～2023/9/29 の間の315時間 (各実習施設の計画による)</p>	
成績評価方法	実習評価表の判定基準に基づく
教科書	
参考書	<p>視能学 第2版：丸尾敏夫 他、文光堂、2011</p> <p>視能矯正学 第3版：丸尾敏夫 他、金原出版、2012</p> <p>視能検査ガイド 第2版：根本 昭、文光堂、2016</p> <p>屈折異常とその矯正 改訂第6版：所 敬 他、金原出版 2014 等</p>
備考	

臨床実習セミナー			二本柳淳子・佐藤かおり 佐藤 美智也 他	視能訓練士科 常 勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
3 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的と到達目標	<p>視能臨床実習Ⅰ・Ⅱに当たり、眼科検査に必要な知識と技術の総復習をするとともに、他業種との連携や患者接遇力を向上させる。また最新の知見、技術、機器に触れる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の現場で必要となる知識、技術と研究方法を理解し身に着ける。 体の不自由な方への介助・誘導、検査の工夫ができる。 医療機器の扱い、メンテナンス方法がわかる。 <p>※医療現場での実務経験のある視能訓練士、医療機器修理責任技術者などが実践的指導を行う。</p>
授業の概要 達成課題	<p>まず、臨床実習での目標・課題をまとめる。実習に当たり、不足している知識、学んでおきたいことを多面的に考え、準備する。通常の授業では学べない、身体に障害のある方への介助法、清潔不潔について、医療機器のメンテナンス等それぞれのエキスパートからその実践的なノウハウについて学ぶ。</p> <p>視能臨床実習Ⅰ・Ⅱにおける症例報告の研究法、考え方、実習後のまとめまでを継続的に学び、発表会を行なうことで、学習内容を共有する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 見学実習の報告・内容について検討</p> <p>第 2 週 臨床でみられる症例</p> <p>第 3 週 臨床で注意すべき症例</p> <p>第 4 週 症例データのまとめ方</p> <p>第 5 週 症例報告の書き方</p> <p>第 6 週 実習日誌の書き方</p> <p>第 7 週 医療機器の取り扱いとメンテナンス</p> <p>第 8 週 体の不自由な方の検査①</p> <p>第 9 週 " ②</p> <p>第 10 週 病院における清潔、不潔</p> <p>第 11 週 臨床での事例検討</p> <p>第 12 週 症例報告作成</p> <p>第 13 週 症例報告作成</p> <p>第 14 週 症例報告発表</p> <p>第 15 週 症例報告発表・実習のまとめ</p>	
成績評価方法	見学実習報告・症例報告発表等で評価
教科書	視能学 第2版/丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子/文光堂/2008 現代の眼科学 所敬/金原出版 眼科検査ガイド第2版/文光堂
参考書	視能矯正マニュアル 丸尾敏夫/メディカル葵出版 エッセンシャル眼科学 丸尾敏夫/医歯薬出版 視能検査学/医学書院 視能訓練学/医学書院
備考	

科目名			担当者	
実用国語			小島 郁子	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単 位	実務経験等
3年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的 と 到達目標	<p>病院実習や就職に備え、ビジネス常識やマナー・接遇、履歴書やお礼状の書き方、面接や職場での言葉遣いなどを学び、社会人としての知識や教養を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的なマナーを理解し、場面に応じて振る舞うことができる ・ 履歴書やお礼状を書くことができる ・ 面接時に適切な立ち振る舞いや、言葉遣いをすることができる
授業の概要 達成課題	<p>毎回の授業のはじめに、就職試験に良く出る漢字のテストを行う。 電話のかけ方や面接の練習、就職試験対策等を実習や就職の時期に合わせて行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	漢字読み書き、ビジネスマナー
第 2 週	漢字読み書き、電話のかけ方、
第 3 週	漢字読み書き、敬語、言葉遣い、報告連絡相談
第 4 週	漢字読み書き、自己分析と履歴書
第 5 週	漢字読み書き、お礼状の書き方 1、履歴書
第 6 週	漢字読み書き、お礼状の書き方 2、履歴書
第 7 週	漢字読み書き、面接試験のポイント
第 8 週	漢字読み書き、面接練習 1
第 9 週	漢字読み書き、面接練習 2、作文・小論文の書き方
第 10 週	漢字読み書き、面接練習 3、一般常識問題
第 11 週	漢字読み書き、面接練習 4、適性検査問題
第 12 週	漢字読み書き、面接練習 5、適性検査問題
第 13 週	漢字読み書き、面接練習 6、適性検査問題
第 14 週	漢字読み書き、グループワーク
第 15 週	漢字読み書き、まとめ
成績評価方法	後期終了時にテストを行う。
教科書	なし
参考書	なし。プリントを配付する。
備考	分からないときにそのままにせず、調べる癖をつけて欲しい。辞書や電子辞書、人に聞く等の手段を講じること。

科目名			担当者	
秘書実務講座			北館 英里	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	なし

授業の目的と到達目標	<p>「目的」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な一般常識、マナーを理解する。 ・社会で必要とされる人材の資質を理解させ、学生から社会人へと意識の切り替えを促す。 <p>「目標」</p> <p>秘書検定3級または2級を取得する。</p>
授業の概要 達成課題	<p>社会人として必要なビジネスマナーを学生のうちに学び日常生活に取り入れていく。 実際にスーツを着用した動作練習や電話応対を行い、接遇に必要な立居振舞いや来客応対などに必要な言動を体得する。</p>
<p>【各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>第1週 秘書検定について 今後の予定 教科書：必要とされる資質、職務知識 第2週 振り返りテスト解答 合格基準の説明 教科書：一般知識 第3週 一般知識プリント解答 敬語① 第4週 敬語② 第5週 マナー接遇前半 第6週 マナー接遇後半 第7週 技能 会議と文書とグラフ 第8週 技能 後半 第9週 記述問題対策 第10週 過去問題演習 第11週 過去問題演習 第12週 基本動作練習、立居振舞い 【スーツ登校】 第13週 電話応対 基礎 第14週 電話応対 応用 第15週 手紙・お礼状の書き方</p>	
成績評価方法	<p>期末試験 (100%)</p>
教科書	<p>「秘書検定2級クイックマスター」財団法人実務技能検定協会</p>
参考書	
備考	

